興奮再現。

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●（クロム／ノーマル）テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき

ステレオパディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システムパディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

IHF 主催アジア地区
INTERNATIONAL REFEREE COURSF 報告

――日本ハンドボール協会審委員長　**岡前義春**――

IHFの新しい制度による国際審判員の養成（講習とテスト）コースは、昨年末ヨーロッパをはじめ各地区において開催されているアジア（極東）地区で開催されるのは、今回が最初である。以下六月三日の世界女子選手権アジア代表決定戦の期間に併せて行なわれたこのコースの日程、内容等について報告致します。

期　間　昭和53年6月3日開講（3日～9日）7日間開催

場　所　韓国・ソウル市

講　師　IHF審判委員長
カール・E・ワング
IHF審判員
Q・ボルスタット
J・H・ラーセン

参加者　サウジアラビア2名・クウェート1名・香港2名・台湾7名・韓国12名・日本11名
【計37名】

（日本からの参加者……安藤純光・岡前義春・佐野和夫・光島磯雄・狩野幸介・佐分正典・斉藤実・千野恒夫・村上俊一・田中武一・島田房二）

日程・内容

◎第一日（6／3）
▽9時～9時30分　開講式
（挨拶）○韓国協会会長　李春光○IHF事務総長　マックス・リンケンバーガー○IHF審判委員長　カール・E・ワング
▽9時40分～10時30分
講議……国際審判員の組織、コース、競技規則の改正について

A資格
①年令28～50才
②3年間の国内経験をもち、B資格に登録されテストに合格しなければならない。
③A資格だけが国際競技を担当することができる。

B資格
①国際審判員の候補者である。
②年令42才以下。
③各国内において審判員として登録され、審判員としての記録がなければならない。

【IHFはB資格からAになるためのコースとして、地域コースを開催する。これらA資格の中から20～30ペアの審判員を指名して、中央コースを開催する。中央コースには、IHF加盟各国の審判委員長も出席する。

IHFはオリンピック開催年に準じて、4年間は競技規則の改正を行なわないことになっている。しかし、この中央コースでは競技規則の理解を深めるための（注）をつくることができる。

――現在の競技規則は一九八一年まで変更はない――】

▽10時40分～11時30分
講議……競技規則1～3
▽13時～16時40分
女子アジア予選第一戦（韓国VS台湾）……見学、16時10分より討議

◎第二日（6月4日）
▽9時～11時50分
講議……競技規則3～8
▽15時～16時40分
女子アジア予選（日本VS台湾）……見学、16時10分より討議

◎第三日（6月5日）
▽9時10時50分
講議……競技規則8～13
▽11時～11時50分
ペーパーテスト(F)……問題は昨年のコペンハーゲンにおいて開催された中央コースにおけるものと同じであった（機関紙158号で掲載済み）
▽13時10分～15時10分
実技テスト……（光島・狩野）各ペアーが各ハースを担当。
▽15時10分～16時
各ペアーに対する批評
▽17時～18時
女子アジア予選（日本VS韓国）……見学

◎第四日（6月7日…6日は休養日）
▽9時～10時50分
講議……競技規則13～16
ペーパーテスト（A・B）
▽11時～11時50分
体力テスト
▽13時10分～15時10分

「ハンドボール」
53年8月号（第165号）目次

【表紙写真】
日本リーグから、男子、本田対日新、サイドからゴールをねらう本田、エース佐藤選手。

実技テスト…（千野・斉藤）、（佐分・島田）
▽15時10分〜16時
各ペアーに対する批評
▽17時〜18時
女子アジア予選（韓国VS台湾）
……見学
◎第五日（6月8日）
▽9時〜10時50分
講議……競技規則17
▽11時〜11時50分
ペーパーテスト（C・D）
▽13時10分〜15時
体力テスト……12分間走
▽15時10分〜16時
各ペアーに対する批評
▽17時〜18時
女子アジア予選（日本VS台湾）
……見学
◎第六日（6／9日最終日）
▽9時〜9時50分
講議……競技規則全般について
▽10時〜10時30分
ペーパーテスト（E）
▽10時40分〜11時30分
質疑応答
▽11時30分〜12時
総　括
▽14時30分〜15時30分
オープンゲーム
▽15時40分〜16時
レフェリーコース参加者への参加証授与と受験者（B資格）に対しA資格への認定書の授与。
▽17時〜18時10分
女子アジア予選最終戦（日本VS韓国）……見学

総　括

ＩＨＦが新しいシステムを打ち出して、昨年度から地域別のレフェリーコースが開かれている。アジア地域においてもすでにアラビア地域において昨年開催されている。

今回は、この意味でアジアにおける二回目の開催ということになるが、アジア全域からの参加者が一堂に会したことに意義がある。

コースの進行は、日程に従ってすべてＩＨＦ審判委員長カール・Ｅ・ワング氏によって行なわれた

コースの内容は、昨年度コペンハーゲンで開催された中央コース（機関紙157〜159号にて掲載）と同じもので、ペーパーテスト・体力テストおよび審判技術テストが行なわれた。体力テストの中に12分間走が加えられている。

今回のコースを終了して、アジア地域にも多くのA資格審判員が誕生した。このこと自体大いに喜ばしいことであるが、この中からＩＨＦ審判委員会の指名を受けて中央コースに出席できる審判員をそして世界選手権大会、オリンピック大会にアジアの、日本の審判員が笛を吹くことが次の目標になる。

また今回のようなアジア地区予選は、アジアの審判員によって行なわれるべきであろう

日本のA資格認定者は次の通りである。

光島磯雄（大阪）
狩野幸介（兵庫）
佐分正典（神奈川）
斉藤　実（山梨）
千野恒夫（山梨）

なお大塚文雄氏は公務のため参加できなかったことが残念である。

IHFアジア地区レフェリーコース参加報告

斉藤　実
千野恒夫

報告にさきだって、今回のIHF主催レフェリーコース参加にあたりまして、全国の多数の諸兄から熱意あるご支援を賜りましたことにつき、紙上をかりまして厚くお礼を申し上げます。

さて、今回韓国のソウル市で開かれたコースは、第七回世界女子ハンドボール選手権大会アジア予選がソウル市で開催されるにあたり、この大会日程に合わせてアジア地区IHFレフェリー候補者を集め、6月3日から6月9日まで行なわれました。

開催国、韓国をはじめクェート・サウジアラビヤ等約名が受講し日本からは、安藤純光・岡前義春・佐野和夫のIHFレフェリー3氏と光嶋磯雄、狩野幸介、佐分正典の氏と斉藤、千野のレフェリー候補者とオブザーバーとして島田房二(東京)、村上・田中(福島)の各氏計11名が参加しました。

講師はIHFルール・レフェリー委員会委員長、ガール・E・ワング氏(ノルウェー)でアシスタントとして本アジア予辺レフェリーのキビンド・ボルスタッド氏とジョン・H・ラーゼン氏(ノルウェー)の2氏があたった。

このレフェリーコースの内容は

一、ルール解釈の講義
二、理論テスト
三、審判技術の評価
四、体力テスト
五、試合及びその審判技術見学

一応順を追って説明します。

＜ルール解釈について＞

IHFの考えと日本協会の解釈には相違点は全くありませんでしたが、特に説明のあった点を書いてみます。

○　ルール1（競技場）

a、交替エリアは、この範囲を越えてはならないという意味でラインを踏んだというのはセーフ。

b、両チームのベンチは、記録席から交替位置の限界線を見るのに邪魔にならないように、またサイドラインから少くとも1m離すことが望ましい。

○　ルール3（プレーヤー）

（リストには載っているが、資格のないプレーヤーが侵入したことに対する例題）

チームA4は2分間の追場を命ぜられたが、追場時間30秒残っているときコートにとび出し相手の得点チャンスを租暴行為でつぶした。どういう処置をとるか。

a、この処置には時間が必要なので、まず笛を吹いてタイムアウトをとるべきである。

b、明らかな得点チャンスを反則でつぶしたことに対して、相手チームにペナルティスローが与えられなければならない。

c、資格のないA4がコートに入いり反則したことに対してA4は追放されなければならない。したがってAチームは、残り時間1名少ない状態でゲームを続ける。

d、A4の反則は追場に相当するプレーであるから、フィールドプレーヤーを1名2分間追場させる

e、A4の追場時間は、まだ30秒残っているので更にもう1名のフィールドプレーヤーを30秒間追場させる。

この結果、Aチームのフィールドプレーヤーは、競技再開後30秒間は3名であり、2分後に5名、すなわちGKを含めて6名で残り時間を競技する。

（リストに載ってないプレーヤーが侵入した場合）

チームA14はリストに載っていない。このA14がコートに入いり反則した場合には、A14は失格、コート上のフィールドプレーヤー1名を2分間追場させる。

○　ルール4（競技時間）

バスケットボールやアイスホッケーと異り、ハンドボールはロスタイムも競技時間に入っているが実際のプレータイムを減少させることのないよう必要に応じタイムアウトをとるべきである（ペナルティスロー時の選手の交替、ボールが違方へ行った場合、警告・退場・失格処理で時間が必要な時等）。

○　ルール6（相手に対する動作）

全体を通して一番大切なルールである。

a、開いた片手の手首から先を使用してボールを落すのは良いが、同じ開いた片手でも、腕を振って落したり、指先で突くのは反則である。

b、攻撃側のブロックプレー、すなわちオブストラクトでは、自分の身体の幅を広げて相手の動きを阻止してはいけない（腕を広げてブロックするのは反則）。

c、相手ゴールが無人でシュートチャンスであるとき、相手チームの反則でチャンスを逸っしたときは、たとえ自陣コートであってもペナルティスローが与えられねばならない。

d、レフェリースローは、レフェリーに判定できなかったと見なされることもあるのであまり多くとるべきでない。

ルール6の7と13の6及び14の8の関連は重要であるのでよく研究しなさい。又、アタックチームのチャージングはよく見える位置を求めて動きなさい。またその際両チームの接触で膝が相手に入いる様な場合には警告・退場・追放をとりなさい。また、フリースロー時の3m離れることについても同じです。

○　ルール8（ゴールキーパー）

GKのユニホームの色での実例で、韓国のGKは青、FPは赤、日本のGKは赤、FPは白で登録したが、日本のGKに赤を消すためのシャツを着せ、韓国FPと区別する処置をとっていました。

○　ルール11（コーナースロー）

片足がポイントにあるならば、他の足は競技場内外のどこでもよい。

○　ルール13（フリースロー）

アドバンテーヂについては一番むづかしいところであり、13の6をよく読み、理解し考えねばならない。又、14の8とよく照らし合せてコントローカした笛を吹くべきであり、この13の6と14の8の運用が良いか悪いかによって、上手なレフェリーと言えるかどうかの分かれ目となる。

○　ルール14（ペナルティスロー）

a、ペナルティスローを行なう際スローアーの足について多少ルーズになっているが、スローアーの手からボールが離れる前にポイントの足が床から離れたか否か、ラインを踏んだかどうかをよく見な

さい。

b、ポイントの足を野球の投手のように動かすのは反則だが、後ろ足をポイントにして前足をグランド上を擦って動かすのは反則ではない。

c、ペナルティスロー時のプレーヤーの位置は、図Aのように位置してよい。

○ ルール15(レフェリースロー)

レフェリースロー時の位置のとり方の改正(フリースローライン付近で行なう場合、攻撃側もフリースローラインの中に位置することができる)は、スウェーデンから提案され、どちらのボールでもないのに一チームにのみ規制が加えられるのは不合理だということから。

○ ルール16(各種スロー)

フリースローを急ぐ時、走りながらスローしてしまう場合があるが、やはり片足を固定した状態でスローさせるべきである。

○ ルール17(レフェリータイムキーパースコアラー)

a、プレーヤーがレフェリーを侮辱する言葉にまどわされず、堂々と判定すべきであり、その侮辱を自分でかぶってしまう必要はない

b、非紳士的行為には、相手選手に対するもの及びレフェリーに対するものがあるが、レフェリーに対するものについては、厳然たる態度で追放しなさい。

c、レフェリーの判定に対し、コートに入らんばかりにして文句を言う場合があるが、警告、失格などで処理しなさい。したがってレフェリーは、コートのみでなく、ベンチをも見ながら笛を吹くべきである。

d、17の16は今回改正したルールであるが、今迄の5分の退場を考えると、ほとんど使われていない

したがって非紳士的行為については、早めに失格をとり、ラフゲームにならないように努めるべきである。

e、2人のレフェリーは、互に意志の疎通をはかり、パータナーの分野を犯して判定することがないように努めなさい。

f、ゲーム中レフェリーはコートを見ていて、ベンチの一人が相手チームのコーチを殴ったのが判らなかった場合、タイムキーパーがレフェリーの権限を越えて失格を宣することが出来る。

g、GKの顔にボールを当てることが即故意であると判定することには困難性があるが、GKの顔にボールが当り倒れ、ボールはフィールドに戻り、そのボールをもう一度シュートしようとしている場合には、GKが倒れた時点でタイムアウトにすべきで、競技再開方法は、ボールがゴールエリア内にあるときはゴールスロー、ボールがフィールドに戻ればレフェリースローで始める。

h、警告の回数についてベンチからクレームが出る場合もあるが、この場合には即タイムアウトをとり記録係と相対すべきである。

i、失格と追放との相違点は、失格は、コート外の者にも適用できるが、追放は、プレーヤーにのみ適用するものである。

<理論テストについて>

全部で30問用意され、それを10問づつ3日間で行なった。幾つかの解答の中から正答を選択する型式だったが、なかなか厄介な設問で、ルールブックをよく読み、しっかり把握し、精通していなければと改めて感じました。

<レフェリングについて>

一、センターレフェリーになった場合は全体が見える位置を求めてよく動きなさい。動かないと自分自身が心理的にだらけるもとになる。

又、ゴールレフェリーになった場合も前後左右への移動を忘れずに。

二、上体を前傾した姿勢、すなわち反則を探すような姿勢は、自分自身緊張してしまうという点からも好ましくない。レフェリーは反則を見つけるのが目的ではないので動き易いリラックスした姿勢で管理すべきである。

三、警告・退場及びペナルティスロー等の判定時には、2人がそのプレーヤー、あるいはペナルティスローラインにかけ寄り、2人が一致して判定したことを示しなさい。

四、警告・退場を判定したときには、選手とさらに記録席に明確に番号を知らせなさい。このとき必要ならばタイムアウトをとりなさい。

五、得点認定は、センターレフェリーとよく確認して笛を吹きなさい。したがって2人のレフェリーは常に目で意志を確認し合いなさい。

六、レフェリーのジェスチャーは自分自身が判っているのでは意味がない(ルールブックに載ってない創造したジェスチャーを使用しないように)。プレーヤー及び多くの観衆にはっきり判るように明確に、大きく示すべきである。

七、出来得る限り2人が対角線を作るように努め死角を作らないように。

例えば図Bのように、センターレフェリー①は、②でおきた反則の位置を示すために移動したならば、ゴールレフェリー①はそれを見てすぐに②に移動し死角を作らないようにする。この移動は、同一サイドのみからゲームを見ることがないように、時々行なった方がよい。しかし、対角線を作ることが絶対的ではない。よい視野が得られるように、ゲームの性格・チームの性格等で位置のとり方を考えなさい。

八、ペナルティスロー時のセンターレフェリーの位置は、(図A参照)

a、全体が見えるところ、

b、シューターが見えるところ

を満たす位置をとるべきである。

具体的には、ペナルティスローラインの延長線上でフリースローラインの外側、更にシューターを正視する側に位置するのがよいと思われる。

九、レフェリーの位置の交代は、5分を目安としているが、早めに交代するのがよい。

十、笛の吹き方で、一つの判定に

対して、一つの音で吹くこと、ピッと二つの音で吹くのは、笛に重さが感じられず、権威を失うことにもなる。

十一、笛の音の大きさで、どの判定に対しても大きな音で吹くと、選手に対する心理的影響があるので気をつけなさい。

十二、エリア付近の反則は（特にポストマンとそれをマークする者）、たとえばボールが動いていても笛を吹いて、反則であることを選手に示しなさい。特にボールを持たずに、エリア付近に走り込んだプレーヤーを後ろから突き飛ばす行為は即退場させるべきである

十三、選手の位置の間違い（故意に不正位置に居るのは別）は、正すことを第一とし、即反則としないこと。

以上が、実際の競技運営で現われた事例に対する解釈及びアドバイスですが、最後にワング氏は、競技開始から5分位の間に、自分の判定基準をしっかり選手に示しラフゲームにならないように、クリーンで技術の高いハンドボールにしなければならないと力説していました。

＜体力テストについて＞

体力テストは、四日目の午前中と、五日目の午後とに分け、図1〜図4を体育館で午前十時から、12分間走（クーパーテスト）を、午後二時から400Mトラックを使い実施しました。体育館での四種目は、タイムレース方式で、12分間走は、走った距離で、それぞれ年代に応じた基準がもうけてあり、その基準より早ければ（距離がいけば）ポイントを加算、遅ければポイントを減じる方法が取られました。

（図1）

センターラインと25Mのマークに向けて、行きは前向全力走で、帰りはバックの全力走で、180Mを一気に走りタイムを測定します。

（図2）

前向き走で六回のターンを加えた全力走。

（図3）

スタートからゴールまでサイドステップ走、からだの向きはターンごと変えても良いし、変えなくても良い自由ですが、クロースステップは禁止

（図4）

前向き走で図示のように25Mと40Mのオールコートを一気に180M全力走。

（12分間走）

400Mトラックを使い12分間で、どの位の距離を走れるかを調べました。20才代は2400M・30才代2.00M 40才代は2000Mが基準距離でポイントは、それぞれ20ポイント。100Mが単位でポイントの加減される

これらの体力テストを実践してみての感想は、参加者が異口同音「苦しい」ということでした。レフリーは、選手と同じように毎日脚力のトレーニングが必要であることを痛感いたしました。又、バック走の走り方をワング氏自から示範しましたが、胸を張り（腰を折ってはいけない）重心をうしろにかけた走りは視野を広くし、又早く走れる。走り方も研究する必要も感じました。

以上が今回の受講で得た内容ですが、これを通して感じたことは両足が同時に地面に触れることはないのではないか、などというミクロの世界を論ずるより、ハンドボールをどういう競技にしていくか、のハンドボール思想を皆で確立していく必要があるのではないかということと、前の講習受講報告で、安藤純光氏や大塚文雄氏が力説していた語学力の問題です。

今回は、アジア地域といろことで大崎電気顧問のヘインズ・プラッシュ氏が通訳して下さいましたが、笑うときに笑えない淋しさ、質問できないもどかしさを痛烈に感じました。やはり技術研修と並行して、語学研修の必要を実感として得てきました。

図1

年代	基準	ポイント
20才台	44秒	10
30才台	48秒	10
40才以上	52秒	10

－1秒につき＋1ポイント
＋1 〃 －1 〃

図3

年代	基準	ポイント
20〜	16秒	10
30〜	17〃	10
40〜	18〃	10

－1秒 ＋1ポイント
＋1秒 －1ポイント

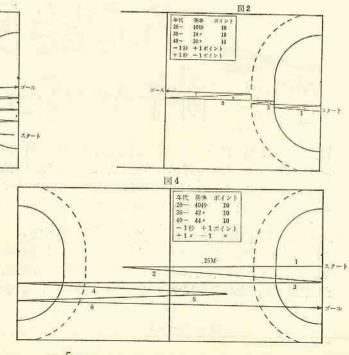
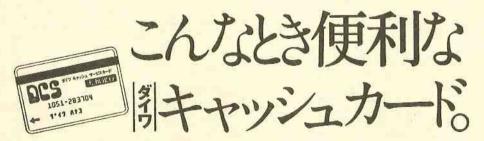
給与の
お引き出しに…

出張に…

ショッピングに…

銀行が
閉まった後で…
(ダイワの外壁や ☑ コーナー)

旅行に…

ふいの出費に…

日常のお引き出しに…
カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…
ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーや ☑ マークのコーナーでは、平日午後5時土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…
お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや ☑ マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…
給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

☑ マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

第7回世界女子選手権アジア予選全日本女子代表参加報告

——韓国遠征から——

第七回世界女子選手権アジア予選に対する今後の問題点

団長　横地　宇吉

我々選手団は、新体制のもとに約1年を経て（合宿は約50日間）アジア予選に出場したが、結果は日本ハンドボール協会発足以来初めてアジア手選において敗退した。これは我々スタッフの情報不足、甘い考えにより敗退したものと責任を感じている。それまでには、いろいろの方より韓国の国情、その他高校、大学、実業団交流より推察しての判断より忠告は受けていたが韓国の強化がここまで進んでいたとは私として甘かったと考えさせられた。今回、韓国を訪れて思ったことはスポーツのみでは無く、あらゆる事柄についていえる。今後、我々ハンドボールを志す者としては、これからの強に化ついて強力な施策が必要である。

韓国チームのゲーム展開は日本的なもので非常にスピードのあるゲーム展開で個々の選手がハンドボールを良く理解しているように感じられる。今回の大会は日本に対しては、ナショナルではあるが造幣公社（太田）選手のみのナショナルがスターメンバーであった。情報については全日本チームの各個人データが韓国側に分析されていた。だが、我々、今回対戦し、差が今回では出たが、まだ完全に差が出たとは思っていない。今後の強化の施策によっては、充分対処出来るものと確信している。今回、ただ残念なのは、だんだん調子を上げて来たが、その最終合宿で見せたような力を出し来れずに敗退したのが残念である。

……韓国との問題点比較……

項目	日本	韓国
○合宿	約50日間であった。	11月～5月まで7カ月間土日曜を除いて合宿した。
○実業団の実状	約10チーム	3チーム（4月より、全州に農機具会社が井色高校卒業生を入れて発足した。）井色は、昨年度国体で高校優勝
○練習時間	午後練習又は、作業終了後	ハンドボールが仕事である。↘従って会社の仕事は行なっていない。
○給与	各企業の一般従業員と同じである。	他の企業の賞金ベースより遙かに高給である。
○高校・大学	実績より推察して韓国がここ数年連勝している。（層が薄い）	（層が厚い）
○個人技	一部の者は精神も強く自信を持っている。	全体的に個人技は日本選手より上である。
○スタミナ	食事の関係が前半は良いが後半スタミナが無い。	前、後半を通じて変化は無い。
○情報	日本はオープン過ぎる。	韓国の情報は入らない。
○言葉	朝鮮語が解読出来ない。	日本語が解読出来る。
○開催地	日本では数千人も入ったところでゲームをしていない。	中学生・高校生を動員し興奮した会場になる。
○食事	韓式又は、洋食が主である。従ってあまり食欲が無い。	地元に有利
○宿舎	今回は新開地で何の変化も無く毎日がホテルで変化が無く気分転換が出来なかった。	
○チーム構成	選抜チーム	単独チームに補強

今回の大会より見て審判問題（判定が悪いとはいっていない）日本では反則した方が有利であるように思われているが、今回の審判を見て今までの日本的（私だけの見方が）判定では、今後の強化及び国内ゲームによる慣れにより戸迷うようなことのなきよう審判の方々もパネルAに合格された方々も多いことですので選手強化・審

Create Your New World with ACCORD

ACCORDとは「調和」「一致」です。
機能重視、人間尊重、そして環境保持。
こうしたテーマを高い次元で調和させました。
多用途・多目的に余裕をもって活用できる機能と
乗る人の心情に深くマッチした
快適さの実現です。
大人の感覚で磨きあげた車。
あなた自身の新しい世界を創造する車。
それがホンダ・アコードです。

ゆとりと調和のアダルト・カー

ACCORD®
CVCC

型式B-SJ・全長4.125m(EX・LX・GL)・全幅1.620m・全高1.340m・軸距2.380m・輪距　前1.400m後1.390m・CVCC水冷4サイクル直列4気筒OHC・総排気量1,599cc・最高出力80ps/5,300rpm・最大トルク12.3kg-m/3,000rpm・燃費21km/ℓ(5速ミッション車60km/h定地走行テスト値)・10モード燃費10.5km/ℓ(運輸省審査値)・四輪ストラット方式独立懸架●51年排出ガス規制適合車。

本田技研工業㈱鈴鹿製作所
三重県鈴鹿市平田町1907 ☎<0593>78-1212 〒513

判技術が相協力し今後の選手強化に結びつける必要がある。

ブラザー工業　山本　福代

世界選手権への出場権が韓国の手中に落ちてから一週間余りの日が過ぎた。

去る六月三日～九日まで、韓国で行なわれた世界選手権アジア予選は、開催国韓国の4戦全勝という成績で終了した。昨年から約一年間、このアジア予選のために重ねて来た合宿も水の泡となってしまったわけだ。

わが全日本チームは、六月一日午後二時二十五分大阪発のＪＡＬで敵地韓国へ向って出発した。韓国への遠征は私にとって二度目であるが前回と同様、多大な観客、いや応援団には驚ろかされるばかりだった。歌あり、拍手あり、声援ありで審判の笛も聞きとれない程の応援ぶりである。しかし、その勇壮な応援に足が竦むということはなく、かえって闘志が湧いてくるのを感じたし、勿論韓国に負けるなどとは予想外の出来事であった。その絶対に負けることはないという自負が命とりになり、第一回目の対韓戦では、前半9：7でリードしていたものの後半終了時には13：17と逆転されてしまった。こうなると次回の対韓戦ではどうしても5点差で勝たなければならなくなった。5点差！5点差5点差！　頭の中は5という数字が渦を巻いていた。結局六月九日の第二回対韓戦も5点差で勝つどころか17：19で韓国の勝利に終わってしまった。後半中盤にはいると、世界選手権の出場権は得られないまでも今後の日本ハンドボール界のために一点差ででも勝ちたいと懸命になったが、力及ばず試合終了の笛が鳴った。

敗因としては、やはりオフェンスにしてもディフェンスにしても過去一年間の合宿でやって来たコンビプレーが試合で出せなかったことだろう。それに試合前から監督の指示が出ていたにも拘わらず最後まで審判の笛に慣れることが出来なくて、オフェンスではチャージングに次ぐチャージング。またディフェンスでは数多くのペナルティスローを与える結果となってしまった。

平均年令十九才という若さの韓国チーム。実業団にはいってから本格的なハンドボールを身につけていくという現状の日本。私達が世界選手権への出場権を手離したことで、また一つ日本に課せられた難問が増えてしまった。

韓国遠征をふり返って

立石電機　丸山　かよ子

世界選手権の出場権を日本に持って帰れず皆様方の御期待に添うことができなかったことは、非常に残念です。

文字どおり、試合は、韓国と日本の競り合いでしたが、けっして勝てない相手ではなかったと思います。それゆえ、より悔まれてなりません。

試合をふり返ってみると、全試合を通して前後、後半とも立上がりが悪く、前半は、中半あたりからペースをつかみ、韓国戦でもリードしていながら、後半立上がりで、たて続けに得点され、自分達のペースが乱れて、シュートまでいかないうちにミスで終わるケースが多くなり、結局、最後まで、ペースがつかめずに自滅した結果になってしまった。今度の試合では、立上がりがいかに大切か、一点を守り抜くことがいかにむつかしいかと、痛切に感じられました。

また、審判の判定のし方にも、多少まどわされたことも事実だと思います。しかし、その国その国その人その人で、判定のし方に違いがあります。やはり、早くその時の審判のくせを知り、それに応じたプレーをしなくてはならないと思います。

韓国は今回で二回ですが、観客が多いことには、常に驚かされます。特に韓国との試合がある時は一層多くなり、ベンチの声、ましてや、プレーしている人同志の声も聞き取りにくいくらい観声が上がります。こんな現象は、日本ではまずないことです。しかし、こういう現象が、一日も早く日本に訪れることを祈りたいのです。

日本ビクター　鈴木はる子

初めての海外遠征は、不安・期待の交錯でした。しかし、ただまん然と韓国へ旅立ったわけではなく、アジア予選を勝ち抜いて、チェコの本大会に出場する目的があったのですから、責任感も私の胸にずっしりと占めていました。

数多くの合宿を重ねて、日本チームとして私自身もベストの状態で臨んだのですが、結果は不本意に終り、本大会への出場は断ち切られました。

さて私たちの敗れた原因は、日本のお家芸と言われている速攻のチャンスが少なく、相手チームに速攻があったことです。結局は、守備力の強化が必要だということを感じます。守備さえよければ当然速攻も出るはずです。決勝の韓国戦で、後半まで前半の体力を維持することが出来なかったのは、受身の防禦のみに追い込まれ体力的に、又精神的にスタミナを消耗してしまったからだと思います。防禦はあくまでも攻撃のための防禦でなければならないと思います。

今回の遠征で沢山の収獲がありました。その一つとして、いかなる場合においても自分の力を十分に発揮し、それをより長く持続しなければならないという事です。

最後に若手の育成をもっと真剣に考え、できるだけ多く指導していただき、また選手自身も、自分のポジションは誰にも渡さないぞという気持ちを持って、日頃の練習にも積極的に取り組むように心掛けてほしいと思います。

日本ビクター　加藤美起子

それは忘れもしない魔の六月九日。対韓国に五点差をつけて勝たない限り、チェコへの切符が手に入いらないという一歩も後に引けない緊迫したムードの朝を迎えた日でした。

第一戦を前半リードしながらも攻半あれよあれよという間にを被せられたケースが多く「エッ、これでＰＴ!!」と防禦において迷いが生じ、チーム本来の攻撃的な防禦もしだいに受け身の型にならざるを得なかった。その迷いが攻撃のリズムをも壊し〝何とかしなくゃ〟という個々の気持ちが裏目にでてしまい、チャージングやシュートの打ち急ぎなどと悪循環を繰り返している間に、韓国は着実に得点を重ねており、気付いた時には三点差。試合終了の笛が吹かれた感じの何とも後味の悪いゲームでした。が、しかし負けたとはいえまだ私達には第二戦に全てをかけるだけの少しの灯があった事。

それは最後の砦とも言うべき〃フォーメーション〃を温存してあったことでした。
ミーティングも充分にやった。後は自分達のペースさえ崩さなければ絶対に5点差は大丈夫だ、あせる事はないと自分に暗示をかけるようにして〃READYピー〃の笛を聞いた。〃さあこれからだ〃ポストやサイドからのPTをとりに強引にわり込んでくるのに対しては殆んど守りきれたので〃よし、これで防禦も安定してきたたぞ〃と思うや否や、敵もさることながら今度はミドルやフリースローで強引に上から打ちまくってきた。日本人と違い豊かなジャンプ力と強力な手首のスナップで打つので、最初のうちはその場でコースをつぶして守っていたのが、得点されるとどうしてもシュートモーションに対して前へつめざるを得ない状態になり、ポストが空くというまんまと敵の作戦にはまってしまった。それも李相玉一人にしてやられたりという感じです。攻撃は自分達本来の足を使ったボール展開ができ、要所々々でサインプレーが殆んど完全に近い型で決まったのが今になって思えば、せめてものなぐさみだったと思います。私達が必死に動いて得点するのに対して、韓国にはいとも簡単に我々の防禦の壁を突き破られたと言うのが試合を終わっての偽らざる気持ちです。今まで国際試合が終わる度に言われていた〃防禦力〃が、いよいよアジア予選にまで言われるのかとは考えたくないが、やはり現実はきびしい。今後日本がアジア予選を勝ち抜く為には、上背はもちろんの事、一ゲームフルに動けるスタミナと、個々のパワーアップが最も必要条件となることでしょう。又、今大会を通して一番感じた事は、日本の審判との〃笛〃の違いでした。ちょっとでも身体接触しようものならば、すぐに反則の笛が吹かれ、ややもするとイエローカードが登場したりで……。よくゲーム開始後五分間位で相手の動きと同時に〃笛〃に慣れろと言われますが、今大会程始終なじめなかった笛も珍しいと思います。
最後になりますが、ハンドボール関係各位の意に添う事ができずに、前記のような結果で終わりました事を深くおわび申し上げます次代を担う後輩諸君の奮闘を期待しております。

〃アジア予選を終えて〃

ブラザー工業　小森久里子

韓国に勝ち世界選手権へという夢、というより責任を感じて日本を発ちました。
私にとっては始めての韓国でした。他のみんなは一度はきた事のある土地だし、先生方も去年から韓国の国体らしきものなどを見学に行かれていたので、試合に責任を感じてとはいえ落ち着いていたと思います。
はっきり言って、まさか負けるとは思っていなかったので、みんなもきっとどこかに、安易な気持ちがあったような気がします。
金沢での合宿が終った時、高校生の男子と試合をしていても充分にこなしてきたから、という気持ちもあったし、ジャスコで最終的な調整にはいったのですが、そこで調子が悪くても、まあ勝てるだろうという考え方で、自分達も進めてきた事が今になって後悔されます。
韓国と台湾の試合をみていても、まさか、ベストメンバーとは思いませんでしたが、勝てるという自信は充分にありました。
日本と韓国と始めて試合をして負けだしてから甘い考え方に気付いて試合が終った時にはとりかえしのつかない事をしてしまったという気持ちと次の韓国戦では勝てるだろうかという不安でいっぱいでした。
二試合目の韓国戦までの間、絶対に勝たなくてはという事と五点差でという事で頭がいっぱいでした。二試合目の台湾戦では、点をとらなくては、という気持が先にたって、ミスがとても目立ちました。
韓国のチームが速攻で点を取れば取るほど私達も足を使わなくてはと思いました。
レフェリーの笛には驚きましたノルウェーの審判という事でしたが、ヨーロッパの試合はもっと激しいものなのに、本当にすぐ警告があたえられるのです。何か思いきってできなかった事がとても残念です。
体の調子が重いと先生方が言われてましたが、自分でそんな事はないといいながらも、生活が変わった事で緊張感がなくなっていたような気がします。
一年間ほとんど変わった事のないメンバーで練習をやってきて、それが、最終的にそのメンバーで試合をできなかった事も残念ですが、メンバーを変えるとチーム力が下がるという事でもいけないと思います。
オリンピックの時も感じたのですが、選手層の問題、それに経験不足の問題など、数多くあると思います。でもまずは何よりも、選手のやる気の問題だと思います。
今後、韓国も今以上に力をつけてくるだろうし、アジアから一つという世界への道もきびしいものになってくると思いますが、若くて、体格のいい選手を早くみつけて、その選手達がやる気を出して常に前進して努力するべきだと思います。それには、もちろん協会の人達の力や関係者の協力も必要になってくると思いますが、日本のハンドボール界が一体となって世界への道を作っていくべきだと思います。
今回の遠征については充分に反省し、各チームのみなさんの協力には深く感謝したいと思います。どうもすみませんでした。

世界選手権アジア予選に出場して

ジャスコ　松下仁美

この予選は、今までの成績をくつがえした結果に終わって来ました。
新星、全日本が取り組まれて約一年、幾多の強化合宿を経て、この全日本の初の海外遠征でした。
ひとりひとりの自覚『何としてもチェコ行の切符を手中に！』という気持ちで乗り込みました。又過去にもアジア予選の為、韓国へ訪れたことはありましたが、あれからの韓国の成長ぶりもわからず自分達の国際経験といっても、実際コートの中でプレーするより、ベンチで見て〃これが国際試合なんだ〃という雰囲気を覚えただけの者も少なくないのです。それが精神的に重圧感みたいなものが、個々にあったと思います。
大会は、6/3〜6/9で、運良く、第一戦の韓国台湾のゲームを観戦でき、チームの動き、メン

バーも少々なりともわかり、ほっとする面もありました。実際自分達がゲームをやって第一に、レフェリーにとまどいました。国内の大会では、ホウルディング・プッシング的な反則がすべて警告・退場、又、ポストマンのジャンプ力を生かしたシュートのつぶしが、すべてペナルティ、どれがチャージで、どこまできけばペナルティか？、という判断がさまざまだったように思います。だから、ディフェンスのあたりが一タイミング遅いので、エリア近くまで入られライン内防ぎょを取られるケースがほとんどでした。

〝ゲームが始まれば、最初の5分で相手をよめ。〟とよく言われますが、相手をよむより、レフェリーを知ることの方に気をとられたように思います。

5日の韓国戦をおとし、望みは9日の最終戦、それには5点差のハンディがあり、チームは沈滞ムード。どうにかして、日本独自の速いパスでのローリングプレー、フォーメーションプレーで相手を動かす、また、ディフェンスを崩すか、いろいろミーティングし、練習の中にも取り入れてやりました。

9日、17時50分からのゲンム、この日もすごい観衆で、レフェリーの笛、ベンチの声、プレーしている皆んなの声も聞こえない。これが国際試合のムードなんだが、それ以上に、皆んな点のことを意識している面があった。特に後半は、ボールを持ちすぎるケース、点を取ることに走ってしまい、ディフェンスがおろそかになるケース、などで逆に相手に加点された。

それにしても、韓国のバネのあるポストシュートには驚ろいた。ゲーム中には少なかったけれど、アップの時など、誰でもスカイプレーをこなしていた。

これからは、限られたメンバーだけでなく選手層を厚くし、海外遠征をやり、多くの国際経験を踏み、誰がゲームに出ても安定したチームの力が出せるように頑張って欲しい。

不本意な成績で申し訳ございませんでした。

日本ビクター　穂積美保子

六月三日から開かれたアジア予選、日本は一戦目が四日の中国戦でした。ナショナルが新たになって、初めての国際試合で、出だしが少しつまずきましたが、まずまずの試合だと思いました。次の日韓国戦では、会場全体が、国を上げての応援で、頭から声援で押え付けられるようでした。試合内容は前半まあまあでしたが、後半立ち上り同点にされ、逆点されてしまいました。これで日本は、韓国二回戦目は五点差で韓国に勝たないと、アジア代表にはなれない、苦しい結果になってしまいました中国戦は別として、韓国にかける気持で頭の中が一ぱいでした。最終日韓国戦では前半、日本のペースで試合が進みられていましたが後半、プレーが雑になり、逆点され、完敗してしまいました。試合を振り返ってみて思ったことはやはり、一人一人の持っている力を出せなかったこと、審判の見方（ペナルティーの取り方。警告、退場の取り方）が最後まで、自分たちに有利に持って行けなかったこと、今まで何度となく合宿を重てきたのにコンビプレーができなかったこと、気持が焦ることに対して口ほど足が動いていなかったことだと思います。最後に私が感じたことは、韓国、中国互いに三年前より技術アップしており韓国などは、ヨーロッパのハンドボールを取り入れており、サイドシュート、ポストシュートなどは、今までの韓国とは特に違っていました

これからの日本のハンドボールは、もっともっと、国際的に通用するプレーを身に付けて行きたいと思います。

アジア大会での反省

立石電機　紀野　奈々美

二度目の韓国でのアジア予選である。ちょうど四年前、同じ形で台湾、韓国と対戦し、当時、韓国に対しそれほどまで重要視されてはいませんでした。この四年の間ハンドボールに対し、他のスポーツ以上に力を入れているという事を耳にし、そして、ここ二〜三年全日本ジュニア、学生と親善試合を重ねているが負けた、と言う報告を聞きながら、今後、日本は苦しくなるだろうという予想がこんなに早くこようとは思っても見ませんでした。別に甘く見てた訳ではない。長い間、この予選を勝ち抜く為、みんなで力を合わせ、苦しい合宿を重ね、この大会に臨んだのですが、世界選手権の切符を手渡してしまいました。

プレーの幅が非常に伸びているポスト、サイド攻撃が多かった。ルーズボールからの速攻の展開が非常に早い。安定したプレーを身につけていました。この大会で一番感じた事といいますと、審判によって、こんなにもゲーム展開が違って来るものなのか、まるでバスケット並であります。エリア内でシュート体勢に入ればPTスロー、サイドなど体に接触もしてなく迫っただけでPT、これにはどうしょうもありません。最後まで本来の自分達のプレーが噛み合わなかった事が残念でなりません

又、私個人の反省としまして、大事な試合になってケガをし、みんなに迷惑かけ、今まで何の為に練習して来たか、と思うと情けなくなります。何と言いましても負けですので仕方ありません。負けをよい反省材料にして今後、韓国に対し今まで以上に色々な面を強化し、選手の自覚はもちろんので、より一層の理解と支えが必要なのではないでしょうか。

日本ビクター　斉藤ゆき子

私にとって初めての公式国際戦でした。前回の親善試合とは、まったく違った雰囲気を持ち私自身も少し、緊張気味で韓国へ入国しました。

そして、驚いた事は一年前に来た時に比べ、台湾は別として韓国が伸びた事でした。日本を出る時から、対韓国戦のみを重点的に練習に励んで来ましたし、ある程度はいける、と思っていました。

学生体育館にて、第二戦、韓国国家中心の国らしく超満員の観衆を集め、日本では、考えられないくらいの熱狂的声援大合唱、ドーム形の体育館ゆえにまともに共鳴し、頭の上からたたかれる様なものすごい声援でした。

ゲームを振り返って、一番感じた事は審判の判定でした。はっきり言ってハンドボールをしているという感じではなく、ハンドボールルールでバスケットをしている様な錯覚にとらわれ、少し強い当りをするとすぐ、イエローカードあたりの強さをモットーに励んで

きた私達にとっては、意表をつかれた判定であり、どのチームも同じといえば、何も言えないのですが特に感じた事でした。その点を韓国チームにうまく使われ、反面私達の場合、上で攻撃になりボールが真中に集まってしまいましたサイドマンでありながらサイド攻撃やポスト攻撃が出来なかった事が、とても残念で仕方がありませんでした。そして、前半リードしながら後半、自分達のチームプレーが出来ず終ってしまい。そのチームプレーに参加出来ない自分の力不足を感じ、とても心残りでした。

今回の試合を振り返って、感じた事は長身にこした事は、ありませんが女子にも男子並みのスケールの大きい、身の軽さ、耐空力、力強さが必要とされているんだなと痛感しました。でも、小さい者は小さいなりに、努力、精進してゆきたいと思います。

そして、この経験を、なんらかの形で生かして行きたいと思います。本当に有難うございました。

東北ムネカタ　清水みよ子

第七回世界選手権大会アジア予選が、六月六日より九日まで、韓国ソウル学生体育館において日本韓国、台湾の三カ国が参加し、二回総当りで行なわれた。

出場参加選手の年齢は十九才以上十七人、十八才以下十三人と上り坂の選手ばかりで、しかも台湾チームは高校生によって代表メンバーが編成されていたのには驚きました。日本では世界選手権代表選手に選抜されているのは、十九才か二十才からだと思います。台湾が一般選抜でチームの編成がされていたらどんなチームになっていただろうと感じました。韓国にも同様のことがいえると思います

日本はといえば、モントリオールオリンピックに参加した選手と入れ替って若返り、技でも力でも世界のレベルへ近づくように、一年間厳しい練習を積み重ねてきたわけですが、やはりオリンピックに参加している六名の先輩に比べると、私を含めて若い選手は甘さがあったのではないかと思いましたが、何ごとでも全員が心一つになってはじめてチームの和や雰囲気ができるものではないかと感じましたし、勝負というものは、コートの場だけで決まるのではなく日常の生活を通じての結びつきによっても影響を受けるものではないかということを強く感じました

又、この大会では先輩に頼りすぎていたように自分自身、今考えています。ゲームは前半、後半という時間があるのですから、いつでも交代できるようにならなければならないし、オリンピックに出場した選手を紹介した記事などをみると全員がそれぞれに、自分の特徴をよくつかみゲームに生かしています。

今度の大会では、韓国チームのスピードをパワーに敗れたと思います。韓国チームの走力を重点にしたトレーニングは、私たちにもよい参考になりました。スポーツは基本、基礎が大切です。次の大目標であるモスクワオリンピックに向って、一日一日を大切にし、今度の韓国戦の屈辱を晴らすよう頑張りたいと思います。

日本体育大学　藤井日出子

今回の大会は、世界選手権に出場する為に絶体に優勝する、そして優勝できると全員が思い、韓国へ出発しました。そして、大会が始まり、台湾と韓国の試合を見学し、韓国チームが速攻の出足が早い事などわかりました。実際韓国とのゲームの時、速攻、セットではポストシュートが多く得点になっていました。相手の速攻に対してはシュートの後のもどりがワンテンポ遅かったのではないかと思います。そしてポストシュートはホイッスルの警告やペナルデーを意識しすぎ、中途半端に相手をはなしてしまったりするのが多かったと思います。しかし二戦目ではロングスローからのシュートやポストに対するあたり方は良かったのですが、ロングシュートに対するつめが遅かった様に思いました

日本の攻撃では、台湾の時は、得点を意識しすぎ、ミスが多く焦ったプレーが多かったと思います韓国の時は、立ち上りが悪かったのですが、二試合とも前半は有利なゲームだったのですが、やはり後半でも立ち上りの悪いのが、そのまま続き、苦しいゲームになったのではないかと思います。そして焦るばかりにシュートの打ちいそぎや、ポストのコンビが悪く相手によまれるようなプレーが出たと思います。

今回の悔しさをオリンピック予選では全体にはらしてほしいと思います。

東京重機　横山祐美子

昨年の七月から今日まで、強化合宿の連続でチーム力もあがり対アジア予選のため韓国に出発しました。

外地で試合をするということはとにかくムード作りが大切なのでその点に関しては特に心がけが必要でした。

昨年の五月に交流試合で韓国と試合をしましたが、韓国もこの大会のために相当の強化をしたあとがみられ、今回は特にポストやサイドを使ったプレーが多く、ポストが動いてロングシューターに合わせるというより、ロングシューターがディフェンスを引き寄せてポストにボールを入れるといった感じで、これによってサイドのディフェンスが引き寄せられ、サイドシューターにボールをパスされてしまうケースが多いようでした

日本と韓国戦は、二戦とも前半のゲーム展開は良かったと思いますが、後半の立ち上りが悪かったために、それが最後まで相手のペースに引き込まれてしまう結果になったような感じがしました。

今後の課題としては、ディフェンスの強化、特にポストに対する防禦方法が必要であることが痛感され、攻撃に於いては、ポストやサイドをいかしペナルティスローを取れるプレーの研究が必要ではないかと思いました。

日本ビクター　小島　和子

アジア予選会開式の日、体育館に足を踏み入れたとたん、耳に響きわたる観衆の声援には、びっくりしました。スタンドは空席がないほどで、市民のハンドボールに対する関心がいかに強いかがわかりました。

中国・韓国・日本の三チームで2回総当りで試合が行なわれ、対中国戦は、楽勝でしたが「快勝」とは言えません。

対韓国戦は、2試合とも前半はリードしていたのですが、後半迫い抜かれてしまったのが残念に思います。

韓国の攻撃は、サイド攻撃が多いため、ディフェンスが広くなってしまい、ポストから飛びこまれてしまうケースが多かったように思います。

それに対し、日本の攻撃は、真中が多い。もう少しロング、ポストの他にサイド攻撃を巧みにしたらよいのではないかと思いました又、日本での合宿の成果が試合に出なかったことが非常に残念に思います。

今回の遠征で技術的にはまだまだ日本の方が上だと思いますが、でも、中国、韓国のハンドボールレベルが大きく向上しているということを知ることができました。

今まで、韓国は、「打倒日本」でがんばってきたけれど、今度は日本が「打倒韓国」でがんばらなければいけないときです。

ジャスコ　河田　栄子

第7回世界女子アジア選手権大会、アジア予選の為、私達は約一年前から、全日本合宿を初め、韓国を目標に苦しい練習を重ねて来ました。

予選は韓国ソウルで開かれた。6月3日～6月9日まで、日本、韓国、台湾の3カ国が集まり、2回総当り戦を行った。

台湾においては、バスケット型のプレーで、実力は卒直にいって日本の高校生なみだ。動き、フォーメーションも個人も日本とは、違って最初の試合はとまどった。

でも今まで練習して来た事を出し、基礎的な事、ミスをなくせばいくらでも得点できた。韓国においては、私達にとって油断の出来ないチーム。ジュニア選抜の主力が今回の中心だった。

李相玉のロングシュートを警戒していると、ポストがゆさぶってくるというパターンをオフェンスの主体にして、どこからでも自由に打ってくる。へたに当ると全部ペナルティーまたは警告、退場があたえられサイドはペナルティーをねらって強引に入ってくる。

私もディフェンスでおもいきり当ると早くも警告、一瞬どのように当って守ればいいのか迷った。不安も大きくなりオフェンスは得点出来るしフォーメーションもわりとかかって、得点に対しては、おもいきり強引につっ込んで行けばペナルティーもくれるのでいいが、あまりにも私達のディフェンスが悪るすぎて、得点させてはいけない点も、簡単にさせていたようだ。

自分の反省としては、やっぱりやるべき事がなされていなかった上から打つ事が、自分の役割だ。打てば入ったという感じはあったがなかなか打つ事がうまく思うようにゆかず、試合が終わり、後の反省で終わり本当に自分のプレーに自信がなくなった。

私達は韓国をあまりにも軽く見すぎて、いくらうまくなってると聞いてもけして負けるとは思っていなかった。

今まで先輩達とやって来て、若手に変わり、最初の大きな大会に負けてしまった。本当に皆様にもうしわけないと思ってます。

今後韓国に対して色々、勉強する面もたくさんあると思います。

世界選手権に出場出来ない事は本当にくやしいです。

ブラザー工業　楠石かずみ

私にとっては、初めての海外遠征であり、何ごとにおいても、ビックリしたりオロオロとすることばかりであった。

まずは、毎日の生活の中で、一番こまったことは、韓国独特な料理には少しおどろいた。だが、慣れとはおそろしいもので、帰る日頃になると、あまり気にしなくなってしまっていた。他の日常生活をする上での不便さはあまりなかったし、あったとすれば言葉ぐらい。

だが、あちらでは日本語を話せる人が多くてあまりそうも感じなかった。今までの私の頭の中での韓国というイメージとは、ほとんどちがっていた。どこをみても、これから、伸びていくんだろうなあという感じがし、それに何事においても力を入れているように思えた。国全体がハンドボールにしても、他のスポーツにおいても、生活をする上にしてもそうじゃないだろうか。本大会で、応援などは、日本などとはくらべものにならない。日本リーグなど行なわれていても、会場はハンドボール関係の人達がほとんどで入っても7部ぐらい。韓国ではそういうことはない。声援がすごくてまるで選手達がスターのようにもみえた。

そういう中で韓国戦を向かえ、まず感じたことはレフェリーがまるでバスケットのレフェリーじゃないかと思うぐらい、きびしい笛をふいた。ちょっとしつこくあたったりなんかするとすぐ警告をあたえられディフェンスが消極的になってしまったような気がした。第1戦ではそういうこともあって時間だけがアッという間にすぎ、結果として13：17で負けてしまっただがここで気落ちしていてはいけない、と2戦目を目標に5点差を頭に入れ、気合を今以上に入れがんばった。が、2戦目も19：17で負けてしまった。まさか負けるとはいう安易な気持ちがこういう結果を出したのだろうか、過去何年間と常に勝っていたのに……これからの韓国ハンドボールというものを、もっときびしい目をもって今までの甘い考えはすてていかなくてはいけないと思った。

女子世界選手権アジア予選を観戦して――

一九七〇年当時から私は全日本実連の理事長をしていた関係から日韓社会人交流の発足に力を貸した一人である。したがって、その頃ようやく芽ばえかけた韓国女子チームの発展の前段階から今までを見つづけてきた形となった。韓国協会関係者は今回の女子世界選手権アジア予選は五分五分、否、やや韓国優勢とまで伝えてきたので、私もぜひ見とどけたいと一次戦のみ観戦に出掛けた。

ここでまず韓国の女子ハンドボール界を振りかえってみよう。韓国では学校体育としてのハンドボールは盛んであり、当時すでに小・中・高などの大会は盛んに行なわれていた。しかしながら大学・一般の部では決ったチームはなく韓国国体の時のみ選手を集めて道(日本でいう県代表)を送っていた。一九七一年始め、二～三の経験者を社員に持っていた白花醸造という会社が、仁川・ソウルの高校優秀選手を集めチームを結成しそれとほぼ同時の一九七一年二月第1回日韓社会人女子交流として来日した。

その時すでに田村紡と引き分けブラザーには勝つといったように日本の中堅実業団チームと互角の試会をしたが、その年の7月熊本における全日本実業団選手権で3位となるに及んで、将来の韓国女子あなどれずという声が起った。

しかし惜しむらくは韓国内で白花の相手となるようなチームが現われず、次第に慢心と選手の新陳代謝がなくなったことで停滞し、遂には解散してしまった。

その後韓国女子界はやや停滞したが、一九七四年三月第3回交流の際、姜京宜らの聖貞女高、李相玉らの忠州女商を中心とした高校生がほとんどのジュニア選抜が来日し、名古屋でのNBN杯に参加した。結果は日立に勝っただけの1勝4敗に終ったが、彼女らが高校を卒業して忠州工専、韓星女大に入学してチームの強化を企てたほぼ時を同じくして白花時代の権美子、李太姫(ともに前回のアジア予選代表)を中心として仁川市役所もチームを発足させた。この時初めて韓国で大学・一般の部で競い合いの時代を迎えた。この3強時代到来が韓国女子の基礎固めとなった。なお仁川市役所は一九七六年三月第5回社会人交流で、また忠州工専もその6年の月韓星女大を1点差で破って第5回女子学生交流でともに来日した。

現在は李相玉選手を中心として忠州工専およびその近郊の高校選手を集めた造幣公社が頭角を現わしてきており、3強時代に崩れが見られてきているのでこれからの発展段階が注目される。

ただ最近では経済情勢の発展から、白花時代にはなかった選手の引退後の就業機会にも恵まれ、選手の新陳代謝も可能になってきた。

この様な発展段階の中で、日韓社会人交流の占めるウエイトは非常に大きなものであり、また韓国のトップチームのコーチを一貫して金栄信氏が当ってきたことも大きな力となっている。

私たちが日韓交流を盛んに行なって来たのはアジアすなわち日本が、対ヨーロッパに強くなるためであり、そのために近くの韓国のレベルアップを企ってよきライバルとなってもらうためであった。しかし私だけでなく日本の関係者がよもや敗けるまいと思っていた韓国に、今回敗けてしまったことに大きな衝撃を受けた。

今回はある程度接戦を予儀なくされるとは思っていたが、モントリオール代表選手の精神力だけでも勝つものと信じていた。だが結果は逆に李相玉選手ひとりの精神力に敗けたと言っても過言ではない。私は一次戦のみしか見ていないので結論的なことは差し控えたいが、前半の2点差リードが、後半すぐ点連取されて逆に2点リードされたことならいい、また2回戦制であるにも拘らず、敗けと決った時点から強引に行なって決定的な4点差をつけられた不手際を見るに及んで、ベンチの作戦ミスなのか、従来の指導性の欠陥なのか、はっきりさせなければならないと思った。

私はもともと現在の日本女子のレベルでは、球界の浄財を使ってまでも、世界選手権に出場すべきではないと考えていたくらいである。したがって従来の日本の女子強化ではとても欧州勢に近づくことは困難であり、今回敗けたことがかえっていい刺激剤になったとも思っている。ここで『災転じて福となす』施策がこれからどう出てくるかが問題であり、悪くするとこのまま韓国にずるずると敗け続ける恐れすらある。

従来の強化策を全面的に否定しゼロから出発するくらいに考えて欲しい。けっして個人の責任問題だけで片付けず、日本協会の体質そのものにまでメスを入れて考え直すようにしなければならない。

将来の日本女子の強化に重大な局面に立たされているという危機感を持って、斯界すべてが真剣に取り組もうではありませんか。

そして韓国に勝つためというような小さな目標ではなく、世界の上位へ食い込めるようなチーム作りをしていただきたいと思う。

編集委員　田中滋章

第三回　日本ハンドボールリーグ　前期大会・前半結果

第一週

○第一日男子　6／10（土）愛知県体育館

観客　一五〇〇

本田技研 23（11－3／12－11）14 大阪イーグルス

第3回前期リーグ開幕戦何としても2強の一角に入りたい本田とリーグ戦を1勝でも多く勝ち取りたいイーグルスとの対戦。

前半立ち上がりからイーグルスは本田3番佐藤にマン・ツー・マンの対人防禦をしき、相手のミスをさそい速攻に結びつけたいところだが、本田は動揺なく持ち前の攻撃力で着実に得点し前半で完全なリードを奪う。

後半に入り、イーグルスは立直りを見せ互角にゲームを進めたが前半での点差が大きくものをいい本田の勝利に終った。

得	S	【本田】		〔イグ〕	S	得
0	1	柴田	GK	本田	0	0
0	0	細野	GK			
5	11	田上	FP	高橋	5	2
7	12	佐藤	FP	池本	14	7
6	11	喜井	FP	足羽	0	0
0	1	水本	FP	大西	1	0
2	5	矢野	FP	橋本	1	0
0	0	西田	FP	河原崎	9	0
0	0	松永	FP	福井	17	5
1	3	高橋	FP	北居	0	0
2	4	佐々木	FP	勝木	2	0
0	1	谷元	FP	山口	0	0
23	49		（審・奥村・稲石）		49	14

【PT】本田　田上1（1）佐藤5（3）高橋1（0）イグ　高橋1（1）池本5（4）

大同特殊鋼 22（13－7／9－7）14 日新製鋼呉

湧永から覇権奪還を目指す大同と、上位を食って台風の目にと張り切る日新との開幕戦。

大同は立ち上がり負傷している昨年の得点王蒲生をスタートからはずす余裕を見せ、5分過ぎから固いディフェンス、GK柳川の好守と合いまって全員がムラなく着実に得点。

後半に入ってからもいささかも衰えを見せぬ大同が追いすがる日新を振り切って快勝、開幕第一戦を飾った。また負けたとはいえ、今大会より復起した日新下茂がこの試合7得点を上げる活躍が光った。

得	S	【大同】		【日新】	S	得
0	0	柳川清	GK	三田	0	0
0	0	大園	GK	筒本	0	0
4	7	中井	FP	泉	4	1
1	5	松原	FP	徳田	4	1
5	6	花輪	FP	大庭	10	1
3	7	柳川実	FP	吹上	6	2
4	8	大原	FP	関本	3	1
1	3	中本	FP	脇若	5	1
4	5	蒲生	FP	森	0	0
0	0	浦田	FP	下茂	20	7
0	0	小野	FP	湯中	0	0
0	0	赤堀	FP	高木	0	0
22	41		（審・西川・吉田）		52	14

【PT】大同　蒲生2（1）

○第二日男子　6／11（日）知多市体育館

観客　八〇〇

本田技研 16（8－5／8－8）13 日新製鋼呉

立ち上がり両者共に慎重になりすぎてか、スローペースで得点も個人技に頼るという展開で20分過ぎまでは迫力に欠けた試合展開となったが、ようやく終盤から活気が出始め、後半に入り日新の下茂徳田らの活躍で試合を盛り上げたが、勝負ポイントでのPTの失敗が痛く、地力に一歩勝る本田が2戦目も物にした。

得	S	【本田】		【日新】	S	得
0	0	柴田	GK	三田	0	0
0	0	細野	GK	筒本	0	0
4	7	田上	FP	泉	4	1
5	15	佐藤	FP	徳田	9	3
3	10	喜井	FP	大庭	6	1
0	0	水本	FP	吹上	5	3
0	0	矢野	FP	関本	1	0
1	2	西田	FP	脇若	5	1
0	0	松永	FP	森	0	0
1	3	高橋	FP	下茂	14	4
2	4	佐々木	FP	湯中	0	0
0	0	谷元	FP	日野	0	0
16	41		（審・奥村・稲石）		44	13

大同特殊鋼 26（14－6／12－7）13 大崎電気

前半立ち上がり大同の蒲生をマン・ツー・マンに出た大崎ではあったが、大同の速いパスワークと連けいプレーであっさり3点連取され、大崎は早々と1－5ディフェンスに切り換えた。14分過ぎに大崎は4－5と1点差にツメ寄ったがここまでで、ジリジリと大同に点差を開かれていった。

大崎は第1戦目とあってか、気持だけ先行し決めてに欠く攻撃で巧者揃いの大同に翻弄され完敗であった。一方大同は全員ムラなく動き得点、GK柳川と相まって今シーズンの好調さをうかがわせ2戦目を飾った。

得	S	【大同】		【大崎】	S	得
0	0	柳川清	GK	岡部	0	0
0	0	大園	GK	原田	0	0
3	6	中井	FP	斉藤	3	1
2	4	松原	FP	坂口	3	1
3	7	花輪	FP	大熊	11	0
3	5	柳川実	FP	新田	0	0
9	10	大原	FP	長野	13	5
0	0	中本	FP	椿原	5	3
4	6	蒲生	FP	佐伯	4	3
0	1	浦田	FP	橋本	0	0
2	2	小野	FP	松岡	0	0
0	0	赤堀	FP	金井	0	0
26	41		（審・西川・吉田）		39	13

【PT】大同　花輪1（1）大原1（1）蒲生1（1）小野1（1）大崎　斉藤2（1）椿原1（1）

第二週

○第一日男子　6／17（土）呉市民体育館

観客　一五〇〇

湧永薬品 28（13－10／15－7）17 三景

三景は湧永の高いディフェンスにより再三シュートを打つも殆んどはばまれ得点できず、一方湧永は持ち前の体力と速い動きから着々と得点を重ね前半で大差をつけた。後半に入り元気を取り戻した三景は全員がよく走り得点を上げていったが、湧永も若手松本、山本らの活躍により更に得点を重ね三景に快勝し3勝目を飾った。

得	S	【湧永】		【三景】	S	得
0	0	今井	GK	小林	0	0
0	0	福井	GK	小松	0	0
6	9	津川	FP	佐々木	3	2
1	3	木野	FP	鈴木	6	1
2	6	穂積	FP	山村	4	1
1	2	藤本	FP	川島	2	0
3	5	戸田	FP	烏中	0	0
0	0	内田	FP	地主園	1	0
5	7	松本	FP	村田	10	3
5	10	山本	FP	中馬	6	3
2	7	生駒	FP	西窪	11	7
3	10	池ノ上	FP	吉近	0	0
28	59		（審・岡村・横瀬）		43	17

日新製鋼呉 24（11－9／13－8）17 大阪イーグルス

両者共に前半15分までは拮抗したゲーム展開であったが、15分過ぎより日新の泉、徳田の速攻、大

庭のミドルシュートなどで除々に加点し5点のリードで後半に入る後半に入り、イーグルスは5点のアヘッドを追上げ25分過ぎには2点差にツメ寄ったがそこまでで、残り5分で日新に速攻、カットインなどで点を決められあっさりと振り切られてしまった。しかしこの試合イーグルスの池本選手の8得点が光った。

得	S	【日新】		【イグ】	S	得
0	0	三田	GK	広川	0	0
0	0	筒本		本田	0	0
3	10	泉	FP	高橋	5	0
5	9	徳田	（審・柳井 片山）	池本	17	8
3	9	大庭		足羽	1	0
4	6	吹上		大西	0	0
0	0	関本		橋木	1	1
4	6	脇若		河原崎	9	4
0	0	森		早川	7	2
5	13	下茂		福井	15	2
0	0	湯中		北居	0	0
0	0	日野		勝本	2	0
2453						5717

【PT】日新 脇若2（2）下茂2（2）イグ 高橋1（0）池本2（1）福井2（2）

〇同 女子

ジャスコ 9（7—2 2—5）7 北国銀行

前半北国は動きがスピードに欠け再三放つシュートも短調のため得点に結びつけることができず、一方ジャスコは松下を中心に金田河田らの動きも良く着実に得点7—2の5点リードで後半を迎える

後半に入ってからは、北国もようやく本来のペースを取り戻し一進一退のゲーム展開になり中山、山際、八木らの活躍に依り2点差に迫り観客を大いに湧かせたが惜しくも時間切れとなってしまった

得	S	【ジャ】		【北国】	S	得
0	0	久保	GK	酒谷	0	0
0	0	山本		高橋	0	0
0	0	平田	FP	庄田	2	1
4	5	松下	（審・平田 荒川）	中山	5	2
0	1	林		本田	3	0
3	6	金田		千歩	9	0
0	6	鈴木		山際	10	2
1	5	河田		西手	0	0
0	1	笠		坂	0	0
1	4	若田		崎田	0	0
0	4	横山		八木	5	2
0	0	辻本		木内	0	0
932						347

【PT】ジャ 松下1（1）北国 山際2（0）

〇第二日男子

6／18（日）新居浜市体育館

観客 一〇〇〇

湧永薬品 16（9—9 7—6）15 大阪イーグルス

イーグルスはGK本田を中心にディフェンスを固め攻撃しては福井を中心に地元出身の高橋、橋本の活躍で善戦、前半を同点とし後半に入る。

後半に入って、前半と同じようなゲーム展開で一進一退の攻防戦が続いたが、残り3分湧永は穂積の得点でやっとリードを奪い、2分前イーグルスのエース福井がシュートを放つも湧永GK今井の好守にはばまれ、そのままゲーム終了となった。湧永にとっては苦しい一戦を勝ち取ったが、イーグルスにしては大事な金星を逃してしまった。

得	S	【湧永】		【イグ】	S	得
0	0	今井	GK	広川	0	0
0	0	大城		本田	0	0
3	7	津川	FP	高橋	4	2
0	1	木野	（審・松原 福井）	足羽	0	0
3	9	穂積		大西	5	2
0	0	藤本		橋本	3	2
4	7	戸田		河原崎	3	0
0	0	内田		早川	5	2
5	8	松本		福井	14	7
1	5	山本		北居	0	0
0	0	生駒		杉尾	0	0
0	7	池ノ上		勝本	4	0
1644						3815

【PT】湧永 山本1（1）イグ 福井1（1）

〇同 女子

大崎電気 12（5—3 7—8）11 北国銀行

前半開始後5分まで両チームと得点なく静かなゲーム展開となったが、リーグ初戦の大崎はキャリアと力強いプレーから西が強引に二連続得点をたたき出し、その後もリーグ初出場の石井がPTを決め10分過ぎには3—0とした。一方北国はミュートに今一つ工夫がなく、ようやく12分過ぎから山際がPTを含む2点を返えしたが、大崎石井に16分、19分とPTを決められ5—2とされ、大崎に主導権を握られてしまった。

後半に入ってからやっとペースをつかんだ北国で、一進一退の攻防が繰り広げられ、終了間際千歩の得点で一点差にツメ寄ったが、そのままゲーム終了となった。

得	S	【大崎】		【北国】	S	得
0	0	中島	GK	酒谷	0	0
0	0	藤村		高橋	0	0
0	0	小笠原	FP	庄田	2	0
5	7	西	（審・野村 福田）	中山	1	1
0	0	陽田		木田	0	0
1	1	円野		千歩	17	3
1	7	大場		山際	18	5
1	3	佐々木		西出	0	0
4	6	石井		坂	0	0
0	0	徳渕		崎田	0	0
0	0	江島		八木	7	2
0	0	根間		木内	0	0
1223						4511

【PT】大崎 石井4（4）北国 千歩1（1）山際2（1）

観客 一三〇〇

高知県民体育館

〇女子

立石電機 13（6—7 7—4）11 日立栃木

両チーム共に緒戦での対戦であったが、若干固さが目立つ立石に対し日立が島田のフリースロンからの3得点などで先行し、前半日立の1点リードで終わり、後半に入ってからは、ようやく固さもほぐれ木素の調子を取り戻した立石がよく走り、紀野を中心として桑原、橋口らのポスト、カットインなどで加点15分過ぎには10—9と逆点し立石が主導権をつかみ、そのまま終盤を迎え、24分過ぎに姫野がダメ押しの得点で追いすがる日立を振り切った。

得	S	【立石】		【日立】	S	得
0	0	丸山	GK	高橋	0	0
0	0	井村		寺沢	0	0
1	3	姫野	FP	山井	1	1
5	8	桑原	（審・日野 近藤）	島田	13	5
0	6	平下		吉田	4	2
4	8	紀野		小根沢	0	0
0	0	林		大輪	1	1
1	4	羽立		山戸	0	0
2	6	橋口		箕輪	0	0
0	1	福永		水上	7	2
0	0	薮田		毛塚	0	0
0	0	喜久山		小野瀬	0	0
1336						2811

〇男子

本田技研 26（10—8 16—7）15 大崎電気

立ち上がりから両者共に非常に気合いが入り10分過ぎまで4—4と一進一退の攻防が展開されたがその後地力に優る本田が大崎のミスから田上、西田らの速攻で着々と心点、前半を9点のリードで大崎を大きく引き離してしまった。

後半に入っても本田の執拗な攻撃は続き、戸惑う大崎を突き離して快勝、3勝目を上げた。この試合今一つ大崎にシュートの工夫が欲しかった。

得	S	【本田】		【大崎】	S	得
0	0	柴田	GK	岡部	0	0
0	0	細野		原田	0	0
6	14	佐藤	FP	坂口	4	3
6	11	喜井	（審・島田 森）	斉藤	12	6
1	1	水本		大熊	8	0
2	4	矢野		新田	1	0
1	2	西田		長野	4	1
1	4	松永		椿原	7	2
0	2	高橋		佐伯	5	2
2	3	佐々木		橋本	0	0
0	0	谷元		松岡	0	0
7	12	田上		金井	2	1
2653						4315

【PT】本田 田上2（1）佐藤5（3）大崎 斉藤2（2）

徳山市体育館

観客　一〇〇〇

○女子

ジャスコ 24（12—3、12—6）9 東北ムネカタ

ムネカタ立ち上がり9番落合のシュート・リバウンドを8番米野がよくフォローして得点し先行するも、ジャスコは7番河田のフロースローからの得点で1—1とし、その後も早い動きからムネカタ陣営をかく乱し着々と加点、前半で大差をつけた。

後半に入っても依然ジャスコの攻撃は衰えず、ムネカタの再三のシュートもジャスコGK久保の好守にはばまれ、24—9の大差でジャスコが押し切り2勝目を上げた。

	【ムネ】	S	得
GK	熱海	0	0
GK	海村	0	0
FP	本郷	2	0
FP	近内久	3	2
FP	清水	13	4
FP	加藤	1	0
FP	米野	3	1
FP	落合	21	2
FP	近内正	0	0
FP	水野	0	0
FP	物井	0	0
FP	川音	0	0
		43	9

（審・柳井　片山）

	【ズャ】	S	得
GK	久保	0	0
GK	山本	0	0
FP	平田	0	0
FP	松下	10	6
FP	林	0	0
FP	金田	2	1
FP	鈴木	8	4
FP	河田	8	5
FP	笠	0	0
FP	若田	7	4
FP	横山	2	2
FP	辻木	8	2
		45	24

○男子

日新製鋼呉 17（9—9、8—7）16 三景

前半三景は5—2とリードされたものの、9番村田の絶妙なパス7—7で着々と加点一進一退の攻防の中で9—9の同点とし後半を迎えた。

後半に入り日新のペースでゲームが展開されたが、三景も村田を中心に非常に盛り上がりを見せたが、日新が退いすがる三景を辛うじて振り切り2勝目を上げた。

	【三景】	S	得
GK	小林	0	0
GK	小松	0	0
FP	佐々木	8	3
FP	鈴木	10	5
FP	山村	7	1
FP	川島	0	0
FP	島中	0	0
FP	地主園	0	0
FP	村田	10	3
FP	中馬	4	2
FP	西窪	6	2
FP	吉近	0	0
		45	16

（審・岡村　横瀬）

	【日新】	S	得
GK	三田	0	0
GK	筒本	0	0
FP	泉	2	2
FP	徳田	6	1
FP	大庭	11	3
FP	関本	3	1
FP	吹上	2	2
FP	脇若	6	3
FP	森	0	0
FP	下茂	13	5
FP	湯中	0	0
FP	高木	0	0
		43	17

【PT】三景　佐々木2（1）日新　脇若1（1）

大同特殊鋼 30（14—8、16—9）17 三陽商会

前半13分まで5—5のシーソーゲームで好ゲームが予想されたがその後地力に優る大同が着実に加点し前半を終了。

	【三陽】	S	得
GK	古近	0	0
GK	田村	0	0
FP	関	24	8
FP	坪子	2	1
FP	稲木	2	2
FP	緒方	2	0
FP	近森	7	2
FP	梅屋	0	0
FP	鵜沢	3	1
FP	三上	2	0
FP	石原	0	0
FP	金子	10	3
		52	17

（審・平田　荒谷）

	【大同】	S	得
GK	柳川清	0	0
GK	大園	0	0
FP	中井	13	9
FP	花輪	7	3
FP	柳川	6	4
FP	大原	10	4
FP	中本	5	1
FP	蒲生	18	7
FP	更谷	0	0
FP	浦田	2	0
FP	山野	5	2
FP	赤堀	0	0
		66	30

【PT】大同　蒲生2（0）三陽　関2（0）

後半立ち上がり10分間に大同は6点連取しゲームを決定的なものにした。その後三陽もよく健闘したが及ばなかった。

第三週

6／24（土）大阪市中央体育館

観客　二五〇〇

○第一日女子

立石電機 15（4—5、11—5）10 東北ムネカタ

前半ムネカタ、ポイントゲッター清水のロングシュート、PTによる得点で互角に試合を進め後半戦が非常に興味を持たれたが、後半に入ってからは立石、桑原の連続ゴールを皮切りに本来の調子に戻った立石が着々と加点、追いすがるムネカタを振り切った。このムネカタ、清水の9得点は大いに観客を湧かせた。

	【ムネ】	S	得
GK	熱海	0	0
GK	海村	0	0
FP	本郷	1	0
FP	近内	3	0
FP	清水	21	9
FP	加藤	0	0
FP	米野	0	0
FP	落合	4	1
FP	水野	0	0
FP	物井	0	0
FP	川音	0	0
		29	10

（審・光島　丸岡）

	【立石】	S	得
GK	丸山	0	0
GK	井村	0	0
FP	姫野	2	1
FP	桑原	10	7
FP	平下	4	2
FP	紀野	0	0
FP	林	0	0
FP	羽立	1	1
FP	橋ノ口	7	1
FP	福永	3	1
FP	藪田	5	2
FP	山下	0	0
		32	15

【PT】立石　桑原1（1）平下2（0）藪田2（1）ムネ　清水4（3）

オレンジ旋風
ピクターを倒す！

日立栃木 13（9—3、4—9）12 日本ビクター

前半開始5分間両者共にやや動きが固く得点無く、5分過ぎからようやく調子をつかんだビクターは染谷、斉藤のPT、穂積と得点一方日立も水上、小根沢、吉田と得点し12分に3—3となったがそれ以後ビクターはシュートを放つも日立GK高橋の好守にはばまれ加点できず、逆に日立はエース島田らの得点で徐々にビクターを離し前半を9—3と6点のリードを奪った。

後半に入りやっと持前の調子が出て来たビクターの攻撃により一点を争う好ゲームが展開され観衆は大いに湧いたが、後半を9—4とするも前半での4点差が物をいい1点差で日立がまたも昨年の王者を敗る金星を上げた。

	【ピク】	S	得
GK	鈴木	0	0
GK	塙	0	0
FP	加藤	4	2
FP	穂積	11	6
FP	小島	2	0
FP	斉藤	3	1
FP	染谷	6	2
FP	伊藤	0	0
FP	藤原	0	0
FP	江橋	0	0
FP	岩城	0	0
FP	池田	2	1
		28	12

（審・狩野　新井）

	【日立】	S	得
GK	高橋	0	0
GK	寺沢	0	0
FP	山井	1	1
FP	島田	9	6
FP	吉田	8	1
FP	小根沢	2	2
FP	大輪	1	1
FP	山戸	0	0
FP	箕輪	0	0
FP	水上	6	2
FP	毛塚	0	0
FP	小野瀬	0	0
		27	13

【PT】日立　島田1（1）ビク　斉藤1（1）染谷4（1）池田1（1）

ブラザー工業 13（6—2、7—9）11 北国銀行

北国は前半立ち上がり本田による先取点もつかのま、15分過ぎに山際のミドリシュートでようやく2点目を加えたにとどまり、一方ブラザーは全員がよく走りムラなく6点を取り後半に入る。

後半に入っては、前半に引きつづき攻め手に一つ欠ける北国であったが、ブラザーのトップディフェンス中川が、指を骨折し欠場するというアクシデントから、ブラザーのディフェンが崩れこれも契機に北国、山際がよくコントロールされたステップシュートにより5点をたたき出し、防御必至のブラザーを追いつめるものの同点に持ち込むことができず終了となった。

	【北国】	S	得
GK	酒谷	0	0
GK	高橋	0	0
FP	中山	0	0
FP	本田	2	1
FP	千歩	13	1
FP	山際	12	7
FP	西出	0	0
FP	坂	0	0
FP	崎田	0	0
FP	八木	2	0
FP	木内	0	0
FP	庄田	3	2
		32	11

（審・寺村　山本）

	【ブラ】	S	得
GK	山本	0	0
GK	尾比久	0	0
FP	岩井	0	0
FP	山中	7	2
FP	則武	0	0
FP	小森	6	3
FP	楠石	0	0
FP	宮平	5	2
FP	植田	2	1
FP	山村	5	3
FP	中川	0	0
FP	川村	5	2
		30	13

【PT】ブラ　山村1（1）北国　山際2（1）千歩1（0）

▽男子

三陽商会 20（8—10、12—8）18 大阪イーグルス

前半イグールスは持ち前の速攻

でよく走りスピードに乗ったゲーム展開であったが、後半に入ってからはやや疲れの見えて来たイーグルスは足がとまり、逆に三陽に速攻を決められ、立て直しをした時にはすでに遅く、あっさりと逆点され大事な一戦を落してしまった。

	【イグ】	S	得
GK	広川	0	0
GK	木田	0	0
FP	高橋	10	5
FP	足羽	0	0
FP	大西	3	2
FP	橋本	8	3
FP	河原崎	6	2
FP	早川	3	1
FP	福井	13	5
FP	北居	0	0
FP	杉尾	0	0
FP	勝本	1	0
		44	18

（審・吉田 福井）

得	S	【三陽】	
0	0	吉近	GK
0	0	田村	GK
5	11	近森	FP
5	14	関	FP
4	6	坪子	FP
0	0	稲木	FP
0	2	緒方	FP
0	0	石原	FP
0	0	梅屋	FP
0	1	鵜沢	FP
2	4	三上	FP
4	7	金子	FP
20	45		

【PT】三陽 関1（1）金子2（1）イグ 高橋1（1）福井1

○第二日 6／25（日） 大阪市中央体育館

観客 一〇〇〇

○男子

大同特殊鋼 23（9−8 14−8）16 大阪イーグルス

大同の蒲生、イーグルスの福井と両エースによる打ち合いがこの試合の見どころとなり、両者共によく動き積極的にシュートを打っていた。前半中盤よりイーグルスも同点に追いついたが、後半に入ってはやはり地力に優る大同の一方的な試合となり大会4勝目をマークした。

	【イグ】	S	得
GK	広川	0	0
GK	木田	0	0
FP	高橋	6	1
FP	足羽	2	1
FP	大西	3	2
FP	橋本	5	2
FP	河原崎	1	0
FP	早川	5	2
FP	福井	10	8
FP	北居	0	0
FP	杉尾	0	0
FP	勝本	1	0
		33	16

（審・吉田 福井）

得	S	【大同】	
0	0	大関	GK
4	7	中井	FP
5	7	松原	FP
3	9	花輪	FP
0	0	柳川	FP
1	4	大原	FP
5	7	中本	FP
5	10	蒲生	FP
0	0	更谷	FP
0	0	浦田	FP
0	0	小野	FP
23	44		

【PT】大同 若輪、中本、蒲生各1 イグ 大西、福井各1

○女子

大崎電気 11（5−3 6−7）10 ブラザー工業

両者共に最後まで気のゆるせない好ゲームが展開された。

前半を2点のリードで折り返した大崎は、後半ブラザーの反撃にあい21分過ぎ後半より出場したブラザー、エース小森のPTゴールで10−9と逆点とされたが、大崎は23分大場、24分徳渕による勝ち越し点を決め追いすがるブラザーをくだした。選手とベンチの一体感がこのゲームの勝敗を左右した。

	【ブラ】	S	得
GK	山本	0	0
GK	尾比久	0	0
FP	山中	8	1
FP	則武	3	1
FP	小森	6	3
FP	楠石	0	0
FP	宮平	9	1
FP	植田	2	1
FP	山村	3	1
FP	中川	0	0
FP	川村	2	1
FP	岩井	3	1
		36	10

（審・光島 望月）

得	S	【大崎】	
6	0	中島	GK
0	0	藤村	GK
0	0	小笠原	FP
3	9	西	FP
0	0	陽田	FP
0	2	内野	FP
2	9	大場	FP
1	4	佐々木	FP
4	6	石井	FP
1	1	徳渕	FP
0	0	江島	FP
0	0	根間	FP
11	31		

【PT】大崎 石井2（2）ブラ 小森2（2）山村1（0）

日立栃木 14（7−5 7−5）10 北国銀行

前半開始後2分北国、山際のPTゴールで北国が先行したが、15分過ぎには日立が5−4と一点のリードを奪い、ゲーム内容はやはり両チームとも気のゆるせない展開であった。小松市女OGの気の合ったメンバー構成による北国であったが、地力に優る日立の貫録勝ちであり、北国の善戦にとどまったゲームであった。

	【北国】	S	得
GK	酒谷	0	0
GK	高橋	0	0
FP	庄田	0	0
FP	中山	3	3
FP	本田	0	0
FP	八木	8	3
FP	千歩	11	2
FP	木内	0	0
FP	山際	11	2
FP	西出	0	0
FP	坂	0	0
FP	崎田	0	0
		33	10

（審・荒谷 東）

得	S	【日立】	
0	0	高橋	GK
0	0	寺沢	GK
5	7	山井	FP
3	8	島田	FP
0	5	寺田	FP
2	2	小根沢	FP
3	3	大輪	FP
0	1	山戸	FP
0	0	箕輪	FP
1	4	水上	FP
0	0	毛塚	FP
0	0	小野瀬	FP
14	30		

神戸市中央体育館

観客 一七〇〇

○男子

三景 22（11−11 11−6）17 大崎電気

立ち上がりから両者共に気合いの入った一進一退の攻防が繰広げられ互角で前半を終了。

後半に入りミスの目立ち始めた大崎のスキをつき、三景は鈴木らの確実な得点により追いすがる大崎を突き離し快勝した。

	【大崎】	S	得
GK	岡部	0	0
GK	原田	0	0
FP	斉藤	8	2
FP	坂口	3	2
FP	大熊	11	4
FP	新田	0	0
FP	長野	13	3
FP	椿原	8	4
FP	佐伯	3	2
FP	橋本	0	0
FP	松岡	0	0
FP	金井	1	0
		47	17

（審・新井 狩野）

得	S	【三景】	
0	0	小林	GK
0	0	小松	GK
2	2	佐々木	FP
7	11	鈴木	FP
2	2	山村	FP
0	0	川島	FP
0	0	島中	FP
0	0	地主園	FP
3	5	村田	FP
2	5	中島	FP
6	16	西窪	FP
0	0	吉近	FP
22	41		

【PT】三景 村田1（1）大崎 斉藤3（2）桧原2（2）

○女子

日本ビクター 16（10−1 6−3）4 東北ムネカタ

昨年の王者の貫録のビクターがムネカタを圧勝した。攻め手余裕のなかったムネカタはビクターの固い守りに攻撃を全くはばまれてしまった。

	【ムネ】	S	得
GK	熱海	0	0
GK	海村	0	0
FP	本郷	3	0
FP	近内	2	0
FP	清水	13	2
FP	加藤	5	2
FP	米野	0	0
FP	落合	1	0
FP	水野	1	0
FP	物井	0	0
FP	川音	0	0
		25	4

（審・片山 横瀬）

得	S	【ビク】	
0	0	鈴木	GK
0	0	塙	GK
6	10	加藤	FP
2	12	穂積	FP
0	1	小島	FP
1	2	斉藤	FP
3	4	染谷	FP
2	4	伊藤	FP
0	0	藤原	FP
1	3	江橋	FP
1	1	岩城	FP
0	1	池田	FP
16	38		

【PT】ビク 加藤1（0）穂積3（2）染谷1（1）

京都府立体育館

観客 二〇〇〇

○男子

湧永薬品 30（15−6 15−8）14 三陽商会

この試合、前年の優勝チームらしく、スピード・機動性・シュートの正確さで終始三陽を圧倒した湧永の順当勝ちといったところ。

三陽はエース関が全得点の半分をたたき出したが、湧永の固いブロックの前に効果的なシュートを封じられることが多かった。

【三陽】

	選手	S	得
GK	吉近	0	0
GK	田村	0	0
FP	近森	10	2
FP	関	20	8
FP	坪子	1	1
FP	稲木	0	0
FP	緒方	1	1
FP	石原	0	0
FP	梅屋	0	0
FP	鶴沢	0	0
FP	三上	0	0
FP	金子	8	2
	計	40	14

【湧永】

	選手	得	S
GK	今井	0	0
GK	福井	0	0
FP	津川	4	8
FP	木野	2	2
FP	穂積	7	9
FP	藤本	1	4
FP	戸田	4	7
FP	内田	0	0
FP	松本	4	5
FP	山木	4	9
FP	生駒	3	3
FP	池ノ上	1	5
	計	30	52

（審・寺村・藤木）

【PT】湧永 池ノ上1（0）
三陽 関2（2）金子1（0）

○女子

ジャスコ 19（9−5, 10−7）12 立石電機

双方二勝無敗同士のぶつかり合いとなったが、ジャスコはスピードある攻撃と正確なシュートで一人で9点をあげた松下の活躍により終始立石をリード、また守ってはGK久保が好守を見せた。立石はエース紀野が負傷にもめげず健闘したが及ばなかった。

【立石】

	選手	S	得
GK	丸山	0	0
GK	井村	0	0
FP	姫野	5	4
FP	桑原	5	1
FP	平下	3	0
FP	紀野	11	3
FP	林	2	1
FP	羽立	1	1
FP	橋口	6	2
FP	福永	1	0
FP	藪田	4	0
FP	喜久山	0	0
	計	38	12

【ジャ】

	選手	得	S
GK	久保	0	0
GK	山本	0	0
FP	平田	0	0
FP	松下	9	12
FP	林	0	0
FP	金田	1	2
FP	鈴木	3	8
FP	河田	3	7
FP	笠	0	0
FP	若田	2	4
FP	横山	0	0
FP	辻本	1	2
	計	19	35

（審・山本・新村）

【PT】ジャ 松下2（2）立石 紀野1（1）

▽第三回日本リーグ前期前半戦の結果から、男子は湧永、大同、本田らの三強がそれぞれ無敗で順当に勝ち進んでおり、後半戦でのトップ争いが大いに興味を持たれるゲームとなろう。一方、女子ではビクターが緒戦で日立に敗れ、ブラザーは大崎に敗れるなどして、昨シーズンと同様の波乱が起っており、どのチームもまだまだ油断できない状態で、これもまた男子と同様に大いに興味を持たされることとなってくるであろう。

<男子途中結果>

＼	湧永	大同	本田	三景	イーグルス	大崎	日新	三陽
湧永	＼			○	○			○
大同		＼			○	○	○	○
本田			＼		○	○	○	
三景	×			＼		○	×	
イーグルス	×	×			＼		×	×
大崎		×	×	×		＼		
日新			×	○	○		＼	
三陽	×	×			○			＼

（6月25日現在）

<女子途中結果>

＼	ビクター	立石	ブラザー	ジャスコ	日立	大崎	ムネカタ	北国
ビクター	＼				×		○	
立石		＼		×	○		○	
ブラザー			＼			×		○
ジャスコ		○		＼			○	○
日立	○	×			＼			○
大崎			○			＼		○
ムネカタ	×	×		×			＼	
北国			×	×	×	×		＼

（6月25日現在）

はばたけ大空へ

——第7回全国中学生大会に寄せて

日本ハンドボール協会
会　長　斎藤　英四郎

全国中学生ハンドボール大会も早や七年目を迎え、内容も益々充実してまいりました。

その間の関係者各位のご尽力に対して敬意を表するものであります。

少年の体位の向上に比べて総合的な体力の劣化は、とみに識者の警告するところです。〃走る・跳ぶ、投げる〃この基本的な動産の訓練の中に初めて総合的な体力の向上がみられます。

一つのボールを通してこれらの運動能力を向上させることのできるハンドボールが少年少女の間に盛んになっていく、これは素晴しいことです。若年の頃から開発された能力は、より大きな成果をもたらすでしょう。

少年少女諸君！
思いっ切り　走って　跳んで　投げよう
普段鍛えた闘志をぶっつけよう
諸君の未来は大きい　大空のように
本大会の成功を祈って——

プレス・ルーム <11>

杉山　茂
——NHK運動部—

■女子敗退は体制出直しの警鐘

世界女子選手権アジア予選（6月・ソウル）における日本チームの敗退は、まったく予想していなかった人が多いだけに、波紋が広がっている。

アジアのタイトル・マッチで、日本が敗れたのは、男女を通じ初めて。いつか、こういう時が来ることは判っていたが、それが、あまりにも早く訪れた、というのが卒直な印象である。

それだけに、本格的な再建には手間どりそうで、来年のモスクワオリンピック予選は、とりあえず応急手当を施して臨み、強化計画のねりなおしは、そのあとという以外に、当座の道はないような気がする。

日本が、ここまで追いこまれてしまった理由は、いくつか考えられるが、つまるところは、「世界」へ目を向けすぎたからだと思う。

最近の強化構想の軸になっていたのは、ヨーロッパの高く厚い壁を打ち破る策ばかり。

アジアの代表権を手にするのは既定の事実という〝甘さ〟があった。

これまで、日本協会は「世界」で敗れても、それを、あまり深く追及しなかった。

なぜ敗れたか、という言葉はなく、なぜ勝てなかったか、という反省に終始していた。

たしかに、これは前向きだ。だが、そうした姿勢をとりつづけられたのも、「アジア」では、いつでも勝てるという安心があったからだ。

その安心が油断となり、そして今回の敗退になった。

さすがに、いまは、なぜ勝てなかったのか、とは誰もいわない。

日本協会は、はじめて〝敗因〟を探らざるを得なくなったのである。

「世界」で勝てない理由というのは、男女とも、出つくしていた感じだ。

だが、敗因となると、これまでそういう経験がない？だけに、あれも、これもといわれているようだ。

酷なみかた、いいかただが、この際、そうしたものをいっさい、出し切ったほうがいい。

男子とて、対岸の火ではないのである。

去年のアジア選手権（クウェート）以後、中国のとっている積極的な国際交流策は、もはや、日本をしのぐ実力を貯えさせたという声がある。

頂点対策、強化対策とは大きな選手、スピードのある選手を集めて、合宿を重ねていればいいというわけではあるまい。

今回の敗退は、日本協会の強化体制出なおしをせまる警鐘だ。

かつてないピンチを迎えたという危機感、切迫感で、これからの日本協会事業を進めていくことが唯一の活路であろう。

■嬉しい日本リーグの盛況

間もなく前期を終ろうとしている第三回日本リーグは、これまでにない観客を動員しているようだ。

運営委が、かなりのムリを払って、「週報・JHUニュース」を発行しているのをはじめ、盛況のカゲには、当然、いくつもの努力の積み重ねがあるわけだが、参加チームが、ようやく「ファンに見ていただく」という、日本リーグの大命題を理解してきたことが大きい。

二年前の発足当時に比べれば、プレイヤーのマナーは、格段によくなったし、それぞれのチーム、プレイヤーに、日本リーグらしい風格が感じられるようになった。

このムードは、これからも、なんとか伸ばしていって欲しい。

好感を抱けるチーム、内容のある試合（この点まだ不充分だが）がつづけば、愛好者、ファンの足は、自然と会場へ向けられるだろうし、そうなれば、マスコミも放ってはおけなくなる。

いつもいうようだが、大観衆を動員している競技は、マスコミがお先棒をかついで煽り立てているのではない。

マスコミの耳目を集めさすだけの〝仕事〟を、それらの団体はしているからなのだ。

もう一つ、活気の因(もと)になっているのは、主管協会の熱態である。

日本リーグ開催をきっかけにして、ハンドボールへの関心を高めさせようとするその姿勢は、いろいろなアイデアを生んでいる。

前座カードに工夫をこらして、当日を「ハンドボール・デー」のように彩った会場もあるし、ナイトゲームの帰りを心配して、中学生券には、父兄同伴優待券を添えた協会もある。

なかでも、埼玉協会(浦和会場)が、来場したファンに「ハンドボールを見ながら、大いに騒いで、日々心につもったモヤモヤを吐き出してしまう」と呼びかけたことは印象的だ。

会場のムードづくりとともに、そこには、ハンドボール界という小さな世界だけを相手にしていない広さ、深さを感じさせる。

ハンドボールが、ハンドボール関係者、特定の愛好者だけの間で親しまれているうちは、大きな発展を望めない。

日本リーグを核にして、ハンドボールというスポーツに誇りをもち、くらしのなかのオアシスにハンドボール会場をみたてるような協会が出てきたことは嬉しい。

日本リーグ女子

来年も8チーム制で

日本リーグは、三月以来、協議をつづけていた来年度の女子チーム数を、現行8のまま、据えおくことに決めた。

これは、6月4日の運営委員会で〝最終決定〟したもので、3月いちどは決議し、公表した「二部発足による6チーム制」は、男子のみに適用することとなった。

女子8チームを「2回総当り」とするか、「1回総当り」に縮少するかは、徳永運営委員長と日本協会が、来年度のスケジュールを調整したうえで決める。

◇

日本リーグは、あっさりと、内容充実をうたった6チーム制（本誌162号参照）を引っこめてしまった。

一、二部のボーダーラインにあるチーム関係者から、強い反抗があってのことと伝えられるが、いずれにせよ、日本リーグのボディが三年目を迎えながら、まだまだすべてに不安定、軟弱を露したものとみなければなるまい。

現行通りに落ち着けたため、どこも波風を受けるところはなく、さしたる批判もないままに、終りそうだが、残念なのは、二部を作ろうと威勢のよい掛け声をかけながら、この三カ月間いっこう、それらしい動きを見せなかったことだ。

日本リーグ未加盟の企業チームは、現在もいくつかあり、それらの関係者と会合して、リーグ入りを要望するなどの努力が、当然、払われてよいものだが、日本協会も、「これはリーグ側の問題」とばかり、まったく関心を示さなかったのは拙い。

いささか不手際つづき、関係者の歯切れも悪いが、こうなったらBクラスチームが奮起して、8チームによる内容充実を、ファンの前で示すことが必要であろう。

実連会長杯女子大会

運営の行き違いで延期

第六回全日本実連会長杯全国実業団女子大会は、6月25日東京・駒沢体育館で、5チームが参加、全日本自衛隊選手権と併せて行われることになっていたが、運営上の行ゆちがいから、自衛隊パートの2試合が終ったところで打ち切られ、今秋以降、改めて開かれることになった。

大会には、5チームの参加が予定され、主管を依頼された全日本自衛隊連盟は、自衛隊3チーム、実業団2チームの2パートに分け自衛隊パートは、第10回全日本自衛隊女子選手権を兼ねるとした。

ところが、自衛隊の2試合は予定どおり行われ、三宿中央病院（東京）が決勝で市ケ谷ワック（東京）を15－3で破り〝優勝〟したのだが、和歌山県商工信用組合（和歌山）と三洋電機（岐阜）は、大会直前、不参加となり、三宿中央病院は、実連会長杯をかけた決勝の相手がいなくなった。

本来なら、三宿中央病院が、楽権勝ちになるところだが、和歌山県商工信用組合と三洋電機には、全日本自衛隊選手権の要項が送られただけで、そのため〝楽権〟したことが判り、全日本実連と全日本自衛隊連では、急きょ、「大会の中止」を決め、三宿中央病院に事情を説明、全日本自衛隊選手権の優勝トロフイーだけを授与した。

全日本実連では、今秋以降、改めて第六回大会の要項を作成したうえで、開催するとしているが、三宿中央病院の取り扱いは未定。

報道関係など、外部にも発表された全国大会が、このような形で中止になったのはめずらしい。

学生東西対抗に

ジュニアの部

全日本学連は、今年の「全日本学生選抜東西対抗」から、男子一二年生によるジュニアの部を設けることになった。

これは、学生界低迷の打開策とジュニア強化という、日本協会の路線に合わせたもので、成果が期待される。

今年の東西対抗（男・女）は、9月15日、愛知県体育館。

◇︶◇︵◇︶◇︵◇︶◇︵◇

☆★☆★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

本場・ヨーロッパのシーズンは秋9月から翌年5月までとみていい。

各国ともリーグ戦、カップ戦を遅いところでも6月10日までには終えて、ちょうどいまは〝夏休み〟というわけで、あまり大きな動きは伝わって来ないが、この時期唯一のビッグトーナメント「ユーゴ・トロフイー」が、今年も男女豪華な顔ぶれで行われた。

かつて日本も参加したことのあるタシマイダンカップは、6月27日から7月1日まで6カ国が出場で争われた。

世界選手権後、各国は、競いあうように、有力な若手をナショナルチームに加えているが、この大会でも、そういった新進の活躍に注目が集った。

優勝したユーゴは、宿将ホルバァやミルヤクに代ってクリボカピッチ、ヨボビッチらが豪快な攻撃をみせ、クリボカピッチは34ゴールで得点王。

2位のソ連は、マキシモフ、クリモフらが姿を見せず、世界ジュニアで関係者を驚嘆させたプロフが登場、29ゴールをあげ、大器の評判をいっそう高いものにした。

コートサイドを沸かせたのはスイス。同国は、世界選手権Cグループだが、さきに東欧勢顔負けの強化プランを打ち出し、着々とその成果をあげ、ソ連を破るなど3勝2敗での3位はみごと。ツーリング、十七ト、シャール、アフオルターらの攻撃力は、なかなかのものになっている。

他の3国は、ルーマニアはGKペヌバートランの両エースが出ずポーランドもクレムペル抜き、ハンガリーは若手がまだ安定せず、それぞれ〝腕試し〟にとどまった。

ユーゴ 27—19 スイス
ソ　連 25—24 ポーランド
ルーマニア 21—19 ハンガリー
スイス 24—19 ルーマニア
ユーゴ 24—21 ポーランド
ソ　連 17(分)17 ハンガリー
ポーランド 23—19 スイス
ユーゴ 23—20 ハンガリー
ソ　連 20—14 ルーマニア
ユーゴ 18—13 ルーマニア
ポーランド 24—21 ハンガリー
スイス 24—21 ソ　連
スイス 22—21 ハンガリー
ソ　連 16—14 ユーゴ
ルーマニア 26—22 ポーランド

【順位】①ユーゴ4勝1敗②ソ連3勝1分1敗③スイス3勝2敗④ポーランド・ルーマニア2勝3敗⑥ハンガリー1分4敗

ソ連、東ドイツと分ける
～ユーゴ女子国際～

一方、第十八回女子ユーゴトロフィー（ザグレブ・カップ）は6月13日から17日まで行われ、今冬の世界選手権で優勝を争うとみられる強豪5カ国が参加。激戦を演じた。

期待のソ連—東ドイツ戦は、予想どおり、スケールの大きい好試合となり、前半東ドイツが、3点のリードを奪ったが、ソ連も反撃18—18の同点、引き分けとなった。

他の3カ国は、両者に比べると攻撃パワーで一歩をゆずった。

各国とも、ほとんど世界選手権に向かうレギュラーを揃え、マカレス、スバレーワ(ともにソ連)、マッツ(東ドイツ)、ステルビンスキー（ハンガリー）、スラジッチ（ユーゴ）、ミクロス(ルーマニア)らの健在が光った。

また、ソ連が16才のGKスパルを出場させ、話題をまいた。

ソ　連 20—11 ユーゴB
東ドイツ 16—12 ハンガリー
ユーゴ 18—13 ルーマニア
ユーゴ 23—15 ユーゴB
ハンガリー 19—11 ルーマニア
ソ　連 18(分)18 東ドイツ
ソ　連 15—8 ルーマニア
東ドイツ 17—10 ユーゴB
ユーゴ 16(分)16 ハンガリー
東ドイツ 21—14 ユーゴ
ルーマニア 17—17 ユーゴB
ソ　連 15—6 ハンガリー
ソ　連 16—11 ユーゴ
ハンガリー 17—7 ユーゴB
東ドイツ 21—16 ルーマニア

【順位】①ソ連4勝1分（得失点差29）②東ドイツ4勝1分（22）③ハンガリー・ユーゴ2勝1分2敗⑥ユーゴB・ルーマニア1分4敗

ブルガリア国際は東ドイツ　ブルガリア女子国際トーナメントが6月なかばバルナで開かれユーゴトロフィーの帰途に立ち寄った東ドイツが、決勝でユーゴを19—15で破り優勝を飾った。

3位決定戦のハンガリー—ルーマニアは14—8でハンガリー。地元ブルガリアは5位だった。

世界選手権C組合せ　IHF（国際ハンドボール連盟）はこのほど、今秋11月14日から18日までスイスで行われる第10回世界選手権Cグループの予選リーグ組み分けを発表した。

参加するのは、ヨーロッパの9カ国で、予選3組の勝者が、来春2月スペインにおけるBグループ兼モスクワ・オリンピックヨーロッパ最終予選への出場権を得る。なお、Cグループをイギリス、ベルギーは棄権した。

▽予選A組　スイス、ポルトガル、ルクセンブルグ
▽同B組　オーストリア、フィンランド、イスラエル
▽同C組　ノルウエー、ファロー諸島、イタリア

中国、仏国際に参加か　フランスの有力スポーツ紙〝レ・キップ〟によれば、今秋11月フランスで行われる国際男子トーナメントに、中国が参加する。

同トーナメントには、ポーランド、チュニジア、アイスランド、フランス2チームが出場の予定で中国が、ヨーロッパのビッグトーナメントに姿を見せるのは初めてだ。

ラテン杯はルーマニア　ラテン系諸国によるるラテンカップは、ル・マン市(仏)に4カ国が参加、各国ジュニアナショナルによる熱戦をくりひろげ、フランスがスペインを破る波乱などがあったが、予想どおりルーマニアが3戦全勝、優勝を飾った。

遠来のブラジルは、やはり力不足のようだ。

琉球大、九州を制す
初の東北女子は岩手

各地学生

◆北海道学生春季リーグ（4月・室蘭市体育館）
▽男子1部
北教大釧路 12—8 北昇学園
北見工大 16—6 北海学園
北大 25—8 北星学園
北教大釧路 11（分）11 北海学園
北大 21—19 北見工大
北大 10—6 北海学園
北見工大 11—5 北星学園
北大 16—8 北教大釧路
北海学園 11—6 北星学園
北教大釧路 10—4 北見工大
【順位】①北大4戦全勝②北教大釧路2勝1分1敗③北見工大2勝2敗④北海学園1勝1分2敗⑤北星学園4敗
▽同2部順位①室蘭工大②北教大旭川③小樽商大④北海道工大
▽女子
北教大釧路 9—2 北教大旭川
北教大釧路 14—3 北教大旭川
【順位】①北教大釧路②北教大旭川

◆東北学生春季リーグ（6月・宮城県スポーツセンター）
▽男子7～9位決定リーグ
福島大 19—12 宮城教大
宮城教大 29—8 山形大
福島大 39—7 山形大
▽同4～6位決定リーグ
岩手大 15—13 弘前大
岩手大 28—12 東北工大
弘前大 27—10 東北工大
▽同1～3位決定リーグ
東北学院 23—10 東北大
仙台大 23—15 東北大
東北学院 23—16 仙台大
【最終順位】①東北学院②仙台大③東北大④岩手大⑤弘前大⑥東北工大⑦福島大⑧宮城教大⑨山形大
▽女子決勝
岩手大 11—7 宮城教大

◆北信越学生春季リーグ（6月・石川県体育館）
▽予選リーグA組
金沢大 15—12 福井大
福井大 15—7 金沢美工大
金沢大 22—2 金沢美工大
▽同B組
富山大 14—4 金沢医大
金沢工大 18—7 信州大
富山大 11—10 金沢工大
信州大 22—11 金沢医大
金沢工大 26—10 金沢医大
信州大 9—7 富山大
▽5～6位決定戦
信州大 21—10 金沢美大
▽3～4位決定戦
金沢大 16（10—5 6—6）11 金沢工大

◆中四国学生春季リーグ（5月・福山市体育館）
▽男子1部リーグ
広大福山 27—15 修道
広島大 18—10 山口大
愛媛大 21—14 修道
広大福山 22—19 広島大
山口大 18—12 愛媛大
広大福山 21—14 愛媛大
広島大 22—13 修道
山口大 15—14 広大福山
愛媛大 17—15 広島大
山口大 25—14 修道
【順位】①山口大3勝1敗②広大福山3勝1敗③愛媛大2勝2敗④広島大2勝2敗⑤修道4敗
▽同2部順位①岡山大②広島工大③島根大④松山商大⑤徳島大
▽同3部順位①香川大②山口大工学部③近大呉工学部④高知大⑤鳥取大
▽女子
山口大 23—4 岡山県短大
山口大 17—3 岡山大
岡山県短大 13—12 岡山大
【順位】①山口大②岡山県立短大③岡山大

◆第19回（女子第3回）全九州学生選手権（5月・熊本水前寺体育館）
▽男子1回戦
鹿児島大 21—8 九州東海大
宮崎大 13—11 熊本工大
熊本大 15—11 九州工大
▽同2回戦
西南学院 25—2 九州共立大
琉球大 棄権 東和
福岡大 19—12 熊本商大
大分大 21—9 福岡工大
九州大 17—10 長崎大
福岡教大 15—11 鹿児島大
久留米工大 15—11 宮崎大
熊本大 20（延）17 九州産大
▽同準々決勝
福岡教大 23—12 大分大
福岡大 23—7 熊本大
琉球大 26—14 西南学院
九州大 14—13 久留米工大
▽同準決勝
琉球大 17—12 福岡大
九州大 11—9 福岡教大
▽同決勝
琉球大 17（5—6 12—8）14 九州大
▽女子リーグ
福岡大 10—6 九州女大
福岡大 8—6 福岡教大
九州女大 14—9 福岡教大
【順位】①福岡大②九州女大③福岡教大

▼第19回関東学生新人戦（6月・駒沢）
▽男子決勝
法政 21（12—3 9—6）9 日大
▽女子リーグ順位①東女体大②日体③筑波④日女体大⑤東京学芸大

21e INTERNATIONALE SLAGERSVAKWEDSTRIJD
1976
UTRECHT

第29回全国高校ハンドボール選手権大会・各地予選会報告……①

第30回岩手県高校総体

6／3〜6／5岩手大グランド

花巻北（男・女）が制す！

▼男子一〜二回戦

釜石南 17－6 盛岡四
久慈 28－12 岩手
花巻北 15－10 釜石南
盛岡三 24－4 岩手橘
福岡工 21－4 一戸高
水沢 15－9 一関工
花巻農 22－4 生活学園
宮古 19－18 福岡高
盛岡商 12－5 大迫
盛岡一 16－7 久慈

▼同三回戦

花巻北 22－7 盛岡三
水沢 26－7 福岡工
花巻農 12－10 宮古
盛岡一 13－8 盛岡商

▼同準決勝

花巻北 16－9 水沢
盛岡一 12－9 花巻農

▼同決勝

花巻北高 14（8－4、6－2）6 盛岡一高

▽女子一回戦

花巻北 3－2 水沢
花巻南 15－4 盛岡三
一戸 8－3 釜石南
岩手女 9－5 福岡
大原商 14－3 久慈山形
釜石商 9－2 宮古
盛岡二 6－3 平舘
花巻農 10－8 黒沢尻南

▽同二回戦

花巻北 5－3 花巻南
岩手女 7－2 一戸
釜石商 10－3 大原商
盛岡二 5－4 花巻農

▽同準決勝

花巻北 5－2 岩手女
釜石商 4－4 盛岡二
（PTC2－1で釜石商が進出）

▽同決勝

花巻北高 13（7－1、6－3）4 釜石商高

【以上の結果、花巻北が男女揃い男子は3年振り3度目、女子は7年振り2度目の優勝】

東京都高校総体

（男子）中大付高が快勝

駒沢第一球技場他4会場

▼男子一回戦

三商 27－17 富士
北多摩 16－9 雪ケ谷
本所 8－4 鷺宮
練馬 25－3 小金工
神代 23－4 羽田工
富士森 13－9 筑波大付高
江戸川 14－7 三鷹
秋川 不戦勝 成城高
駒込 10－7 江北
明星学園 20－4 向島
日大二 不戦勝 忠生
西 21－7 田無工
葛飾野 23－10 篠崎
日体大荏原 26－13 錦城
青山 21－4 玉川
広尾 22－8 創価
府中西 19－6 駿台
井草 28－8 明正
上野 不戦勝 秋留台
杉並工 不戦勝 両国
目黒 27－4 荻窪
豊多摩 不戦勝 駒場学
芝工大一 26－5 昭和一
足立東 12－12 青山学（PTC）
国分寺 41－5 武蔵工大付
南葛飾 12－8 東
新宿 19－7 武蔵丘
墨田川 12－8 開成
北園 不戦勝 深川
三宅 22－7 八王寺
昭和 27－11 城北
府中東 25－12 葛西南
東村山 15－6 筑波大駒場
日野 不戦勝 光丘
学大付 14－5 調布北
五商 13－6 武蔵
小岩 20－11 石神井
農大一 22－10 青梅東

▼同二回戦

三商 15－13 北多摩
本所 17－7 練馬
神代 33－9 保谷
富士森 20－9 白鷗
江戸川 20－14 園芸
秋川 23－12 駒込
国立 19－4 明星学園
東大和 30－13 日大二
西 23－10 葛飾野
日体大荏原 19－5 南多摩
青山 21－9 城西
府中 86－11 広尾
府中西 17－15 井草
上野 30－0 杉並工
目黒 27－11 豊多摩
芝工大一 16－4 足立東
国分寺 33－4 永山
南葛飾 不戦勝 南
新宿 25－6 福生
早大学院 不戦勝 墨田川
駒大高 39－3 北園
三宅 16－14 昭和
府中東 15－13 杉並
東村山 32－9 久留米
佼成 33－2 日野
五商 15－14 学大付
小岩 16－11 農大一

▼同三回戦

明星 18－17 三商
神代 20－10 本所
江戸川 20－10 富士森
国立 21－6 秋川

東大和 23―10 西
日体荏原 28―3 青山
府中西 14―13 府中
拓大一 22―9 上野
中大付 29―12 目黒
国分寺 13―6 芝工大一
新宿 18―11 南葛飾
早大学院 11―10 立川
駒大高 22―14 三宅
府中東 19―10 東村山
佼成 28―13 五商
片倉 27―14 小岩

▼同四回戦

神代 17―13 明星
江戸川 14―10 国立
日体荏原 11―10 東大和
拓大一 17―8 府中西
中大付 32―14 国分寺
早大学院 18―10 新宿
駒大高 23―18 府中東
佼成 19―18 片倉

▼同五回戦

神代 13―12 江戸川
日体荏原 13―12 拓大一
中大付 23―9 早大学院
佼成 14―12 駒大高

▼同決勝リーグ

中大付 27―14 神代
日体荏原 21―13 神代
中大付 28―13 日体荏原
佼成 25―20 神代
中大付 20―8 佼成
日体荏原 16―10 佼成

【順位①中大付②日体荏原③佼成④神代】

▽女子一回戦

五商 21―6 明正
葛飾商 11―6 保谷
南多摩 6―3 東大和
江東商 6―5 富士森
本所 8―4 府中西
武蔵ケ丘 6―2 玉川
農業 不戦勝 南
永山 不戦勝 杉並
白梅 11―11 目白
(PTC)
向島商 不戦勝 練馬
武蔵 不戦勝 福生

▼同二回戦

五商 13―4 葛飾商
学大付 16―2 小平
江戸川 10―2 目黒
拓大一 不戦勝 一商
雪ケ谷 11―7 園芸
南多摩 9―2 調布北
西 9―6 江東商
東村山 11―2 南葛飾
神代 14―0 深川
北多摩 7―4 明星学園
日野 8―3 荻窪
本所 4―3 武蔵ケ丘
農業 5―4 永山
国分寺 不戦勝 二商
豊多摩 9―3 昭和
四谷商 14―0 富士
久留米 15―3 府中東
鷺宮 不戦勝 墨田川
白梅 10―4 青山学
農大一 6―2 日大二
桐朋女 24―3 光丘
三商 9―7 日体桜華
吉祥女 5―1 小岩
向島商 14―11 武蔵

▼同三回戦

三宅 14―4 五商
江戸川 9―5 学大付
拓大一 13―1 雪ケ谷
井草 11―2 南多摩
府中 8―4 西
神代 12―10 東村山
北多摩 9―6 日野
藤村女 21―0 本所
佼成女 21―1 農業
豊多摩 11―2 国分寺
四谷商 不戦勝 久留米
石神井 16―2 鷺宮
広尾 8―6 白梅
桐朋女 16―2 農大一
三商 8―7 吉祥女
桜水商 15―1 向島商

▼同四回戦

三宅 18―5 江戸川
拓大一 11―8 井草
神代 11―7 府中
藤村女 22―1 北多摩
佼成女 21―4 豊多摩
四谷商 13―2 石神井
桐朋女 13―9 広尾
桜水商 14―2 三商

▼同五回戦

三宅 10―9 拓大一
藤村女 15―6 神代
佼成女 7―5 四谷商
桜水商 9―4 桐朋女

▼同決勝リーグ

三宅 9―8 藤村女
桜水商 6―3 佼成女
藤村女 14―2 桜水商
佼成女 11―2 三宅
三宅 11―7 桜水商
藤村女 12―7 佼成女

【順位①三宅②藤村女③桜水商④佼成女】

(男子)法政二、(女子)明倫が制す

53年度神奈川県高校総体
5／21〜6／18(7日間)
法政二高グランド他4会場

▼男子一回戦

鎌倉学 16―12 城山
松陽 14―6 高津
多摩 24―9 大和南
翠嵐 29―0 霧が丘
須賀学 15―14 横浜商工
相模工大附 不戦勝 城山
平沼 26―14 市横須賀
県商工 22―7 神奈工
生田 20―4 川市工
大和 17―12 麻溝台
橘 29―10 磯子工
浅野 19―14 茅ケ崎
東 22―8 上溝南
百合丘 12―10 柏陽
川和 12―5 桜丘
希望丘 18―5 横浜南
座間 不戦勝 横浜商
戸塚 27―13 科学技
秦野 17―4 金井
慶応 26―10 逗子

市川崎 10－8 鶴見
商大高 21－16 向岡工
日野 20－3 緑ケ丘
相模原 18－7 藤沢西
立野 15－4 三浦
光陵 24－0 富岡
桐蔭 17－10 北陵
柿生 23－18 湘南通
瀬谷 18－17 新城
県川崎 9－8 相台工

▼同二回戦
法政二 31－6 鎌倉学
多摩 13－9 松陽
須賀学 15－10 翠嵐
平沼 22－6 相模工大附
県商工 15－12 生田
大和 15－6 橋
東 11－9 浅野
川和 21－13 百合丘
希望丘 18－10 座間
戸塚 16－11 秦野
慶応 21－6 市川崎
日野 15－10 商大高
相模原 11－7 立野
桐蔭 15－5 光陵
瀬谷 16－9 柿生
関東 31－4 県川崎

▼同三回戦
法政二 28－9 多摩
須賀学 16－8 平沼
県商工 25－9 大和
横浜東 12－11 川和
希望丘 16－14 戸塚
日野 11－8 慶応
相模原 11－5 桐蔭
関東 26－7 瀬谷

▼同ブロック決勝
法政二 18－11 須賀学
県商工 13－12 横浜東
日野 16－11 希望丘
関東 25－2 相模原

▼同決勝リーグ
法政二 28－9 県商工
関東 14－8 日野
法政二 17－8 日野
関東 28－6 県商工
県商工 12－9 日野
法政二 10－9 関東
（法政二が3勝で全国大会へ）

▽女子一回戦
上溝南 11－7 緑ケ丘
市川崎 14－4 霧が丘
川和 17－0 城山
北鎌倉 15－3 松陽
日野 8－6 大津
桜ケ丘 9－8 川崎北
北陵 7－5 平沼
高浜 11－10 百合丘
相模原 13－6 藤沢西

▽同二回戦
明倫 17－6 上溝南
江南 6－5 市川崎
柿生 13－0 県川崎
川和 7－0 戸塚
京浜 6－5 北鎌倉
厚木商 14－6 立野
上溝 7－6 瀬谷
生田 9－6 日野
多摩 12－6 桜ケ丘
秦野 13－13 金井
（PTC3－1で○が三回進出）
須賀学 19－5 大和
横浜東 9－4 北陵
高浜 16－5 麻溝台
高木女商 7－3 翠嵐
希望丘 6－5 高津
県商工 16－3 相模原

▽同三回戦
明倫 8－2 江南
川和 8－2 柿生
厚木商 13－3 京浜
生田 13－5 上溝
多摩 7－5 秦野
東 11－6 須賀学
高浜 12－8 高木女商
県商工 13－2 希望丘

▽同ブロック決勝
明倫 9－2 川和
生田 6－5 厚木商
多摩 6－3 東
県商工 10－8 高浜

▽同決勝リーグ
明倫 11－4 生田
県商工 6－2 多摩
明倫 16－2 多摩
県商工 5－4 生田
生田 13－2 多摩
明倫 8－5 県商工
（明倫が3勝を上げ全国大会へ）

（男子）氷見が圧倒的な強さで順当勝ち

北信越選手権富山県大会
6／3～6～5小杉高校

▼男子一回戦
富山 23－1 雄山
二上工 12－4 有磯
富山工 16－8 滑川
八尾 24－4 富山南

▼同二回戦
氷見 36－4 富山
高岡南 24－12 大沢野
新湊 16－13 高岡
日大 10－6 二上工
小杉 25－8 富山工
富山商 22－5 伏木
富山中 17－16 富山東
高岡商 20－7 八尾

▼同三回戦
氷見 33－7 高岡南
日大 23－4 新湊
小杉 19－12 富山商
高岡商 31－9 富山中

▼同準決勝
氷見 10－5 日大
高岡商 15－5 小杉

▼同決勝
氷見 22（9－4，13－3）7 高岡商

▽女子一～二回戦
高岡女 9－5 富山女
清光 9－4 富山東
有礒 8－4 高岡女
日大 12－4 女短付
高岡商 25－3 富山北
小杉 24－3 清光

▽同準決勝
有礒 13－2 日大
高岡商 7－4 小杉

▽同決勝
有礒 14（6－1，8－2）3 高岡商

第17回岡山県高校総体
6／3～6／4岡山操山高

▼男子予選トーナメント
倉工 14－9 成羽
天城 13－2 総社
倉商 14－9 邑久
水工 14－5 芳泉

▼同決勝リーグ
倉工 16－8 倉商
水工 8－8 天城
水工 11－7 倉工
倉商 4－3 天城
（結果水工が2勝1分で初優勝）

▽女子予選トーナメント
天城 12－9 総社
倉商 12－6 津高
落合 12－8 津商

▽同決勝リーグ
天城 9－4 倉商
天城 9－9 落合
落合 17－6 倉商
（得失点で落合が3度目の優勝）

（男子）久留米工大付が制す！

福岡県高体連創立30周年記念総体
6／3・4博多工高
筑紫女学園高

▼男子一回戦
小倉西 34－4 西陵高
香椎高 22－18 三池高
西南高 23－5 田川工
福岡工 24－5 門司高
若松高 26－2 西田川

東海五 27—7 泰星高
小倉工 18—8 福岡高
久工大附高 20—6 宗像高

▼同二回戦

小倉西 25—9 香椎高
福岡工 11—4 西南高
東海五 13—7 若松高
久工大附高 25—9 小倉工

▼同準決勝

小倉西 19—6 福岡工
久工大附高 26—7 東海五

▼同決勝

久留米工大附高 11（4—4、7—5）9 小倉西高

▽女子一回戦

宗像高 9—8 筑紫中央高

▽同二回戦

宗像高 13—4 明善高
京海五 16—1 古賀高
福岡高 6—5 浮羽高
筑紫女 16—3 福岡女

▽同準決勝

東海五 16—7 宗像高
福岡高 7—4 筑紫女

▽同決勝

東海第五 7（4—3、3—1）4 福岡高

第24回関東高校選手権大会

6／3～6／5浦和市立高校

▼男子一回戦

関東学院高（神奈川） 26—13 土浦工（茨城）
浦和西（埼玉） 22—10 馬頭（栃木）
明星（東京） 22—10 国学院栃木（栃木）
藤岡（群馬） 15—8 八千代（千葉）
吉井（群馬） 19—8 日大明誠（山梨）
拓大一（東京） 14—9 麻生（茨城）
吉田（山梨） 13—12 清水（静岡）
川口工（埼玉） 19—12 希望ケ丘（神奈川）

▽女子一回戦

幾原（茨城） 11—7 藤村女（東京）
小山城南（栃木） 20—8 甲府商（山梨）
国学院栃木（栃木） 8—5 川口女（埼玉）
吉井（群馬） 11—6 竜ケ崎二（茨城）
神奈川商工（神奈川） 8—2 佐原（千葉）
山梨（山梨） 16—2 多摩（神奈川）
三宅（東京） 8—3 川口北（埼玉）
流山中央（千葉） 17—11 佐藤学園（群馬）

▼男子二回戦

関東学院 20—14 県石橋（栃木）
中大附（東京） 21—18 浦和西
明星 16—10 佐原
法政二（神奈川） 14—7 藤岡
川口北（埼玉） 23—13 吉井
日川（山梨） 19—16 拓大一
吉田 19—15 岩井（茨城）
富岡（群馬） 14—13 川口工

▽女子二回戦

明倫（神奈川） 10—5 国学院栃木
日川（山梨） 7—5 流山中央
行田女（埼玉） 14—12 吉井
水海道二（茨城） 8—2 神奈川商工
佼成学園（東京） 8—6 山梨
三宅 15—9 群女短大附（群馬）
栃木女（栃木） 11—3 磯原
昭和学院（千葉） 16—10 小山城南

▼男子三回戦

中大附 27—14 関東学院
法政二 12—10 明星
川口北 27—15 日川
富岡 20—4 吉田

▽女子三回戦

行田女 9—5 明倫
水海道二 10—1 佼成学園
三宅 8—7 日川
昭和学院 8—7 栃木女

▼男子準決勝

中大附高 21（9—6、12—6）12 法政二高
川口北高 16（9—6、7—4）10 富岡高

▽女子準決勝

水海道二高 10（5—1、5—1）2 行田女子高
昭和学院高 10（6—4、4—3）7 三宅高

▼男子決勝

中大附高 16（8—6、8—5）11 川口北高

▽女子決勝

水海道二高 8（7—2、1—1）3 昭和学院高

滋賀県予選会

6／18 彦根工高グラウンド
（春季大会ベスト4により実施）

▼男女の部

八幡高 13—11 米原高
高島高 14—11 彦根東

▼同決勝戦

八幡工高 17（8—5、9—7）12 高島高
【八幡工は6年連続10回目出場】

▽女子の部

彦根南 15—4 大津商
宇山女 10—5 高島高

▽同決勝戦

彦根南高 8（2—4、6—3）7 宇山女子高
【彦根南は初出場】

第23回長野県高校体育大会

6月3日、4日
戸倉町県民コート。総合体育館

男子・上田高校、女子・小諸商業高校に栄冠!!

▽男子一回戦

小諸商業 14—10 長野東
野沢南 14—7 屋代
小諸 15—12 美須々丘
臼田 16—15 東海第三
野沢北 22—7 松本蟻ケ崎

▽二回戦

上田 19—6 小諸商業
小諸 25—6 野沢南
北佐久農 29—9 臼田
坂城 21—8 野沢北

▽準決勝

上田 14（6—4、8—4）8 小諸
北佐久農 11（4—7、7—4）11 坂城
P・T・Cにより北佐久農業

▽決勝

上田 13（7—6、6—6）12 北佐久農業

▽女子リーグ戦

小諸商業 17（8—1、9—2）3 佐久
小諸商業 14（7—1、7—2）3 臼田
美須々丘 15（10—1、5—3）4 北農
美須々丘 10（4—8、6—1）9 佐久
臼田 21（10—4、11—5）9 北佐久農業
小諸商業 16（8—0、8—2）2 美須々丘
佐久 14（7—1、7—3）4 北佐久農業
小諸商業 14（10—1、4—2）3 北佐久農業
臼田 10（6—4、4—2）6 佐久
美須々丘 7（3—3、4—2）5 臼田

1位小諸商業4勝 2位美須々丘3勝1敗 3位臼田2勝2敗 4位佐久1勝3敗 5位北佐久農業4敗

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一六五号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和五三年六月二十五日印刷
昭和五三年七月一日発行
発行所
日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円
(年間購読料三千三百円)